
麻生リトル・ラグーマン



神奈川県川崎市

麻生ラグビースクール

「県大会の重み」

副校長 古田 十

毎年、県大会が近づくと思うのはその重みです。普段の交流大会や練習試合とは異なり、10月の後半から行われる県大会の4試合あるいは3試合は本番であり、真剣勝負であり、試練です。

本番とは言うまでもなく、1年間の成果を発揮する場がこの県大会であり、そこでの優勝が当学校の目標にもなっているということ。そこに向けて県大会前の10月過ぎあたりから、コーチたちは、平日は仕事が手につかず、週末は家族に注ぐ以外の、ほぼ全神経をラグビーに集中することになります。

子供たちは、大人達の「目付き」でそれが真剣勝負であることを思い知らされます。

コーチ達は教育者ではないものの、毎週子供たちをお預かりしている立場から、そこでどんな経験をさせてあげられるかが試される場面です。そこでは何か、大人も子供も真剣に向かえば、これからの将来に持って行ってもらえるものが得られるのではと信じているからです。

小学生のうちから、真剣勝負の場が得られることの幸せ、負けて泣いて、勝って泣ける場が得られることの幸せを感じられるのは、彼らがもっと大人になってからのことかもしれません。そして、その喜びを知っている大人たちは、自分の息子たちが卒業してもコーチを続けていきます。

麻生ラグビースクールのコーチである唯一の条件は、そんな経験をたくさんの子供たちと共有することに喜びを感じられる「熱」を持っていることでしょう。

コーチのみなさんおつかれさまでした。来年もよろしくお願いします。

県大会を終え、県協会主催の運動会も終えてしまい、この原稿を出していないことに気づきました……

みなさん、編集委員さんは大変なので提出期限は守りましょう！m(_)_m

「低いタックル」は大正解ではない！ ～ キーワードから「低く」を一時除外しませんか？ ～

技術担当コーチ 大森 昇

今年の県大会が終わりました。一緒に戦った仲間、熱かったコーチ、応援していただいたご家族と「勝って嬉しかった、負けて悔しかった」の気持ちを「分かち合うこと」はとても大切です。戦った相手チームのメンバーのことも忘れないようにしましょう。

負けた試合の敗因を子供達に聞くと、半分以上の子供から「タックルが出来なかった」「今度は低いタックルが出来るように頑張ります」という答えが返ってきます。周りの大人たちから「タックルが高い」「低いタックルをしなさい！」と言われていることが容易に想像できます。（ワールドカップでの日本代表も同様な批判を浴びていたような……）

では、本当に「タックルを低くさえすれば勝てる」のでしょうか？

答えは「NO」です。

正確にはディフェンスシーンで、「低く身構えること」だけを考えていては相手を倒すことは出来ません。スピードに乗ったアタッカーの手前の地面に飛び込んで終わるか、パックしようとした腕を振りほどかれて突破されるか、がいいところです。「低く」だけの意識では相手に触れることも難しいでしょう。

練習では以下の7つの項目を指導しています。（している、と思います）

- ① ポジション（相手の正面ではなく、内側にセット。地面に手をついた低い姿勢で）
- ② ノミネート（誰が誰にタックルしようとしているか、を味方同士、お互いに明確に知らせる）
- ③ アップ（勢い良く飛び出し、相手との間合いを詰める。相手の一步分内側を目指し、正面に立たないように注意）
- ④ アプローチ（接近した後、相手の動く方向を見極め、自分の進行方向を微修正する）
- ⑤ ヒット（④で少し落ちたスピードを上げ、最後は最高速で激しくヒット！）
- ⑥ パック（怪我の防止:シュラッグ / タックルの上手い子はパックの締めつけるパワーも強烈！）

⑦ ドライブ（＝レグドライブ。ヒットで終了と思っている子が多い。ヒット後の3歩が大切。先に倒れないこと）この7項目はミニでもジュニアでも日本代表でも共通です。スクラムでもキックオフでもモールラックでも一緒です。

優勝スクールとの比較で、麻生の生徒は特に③④⑤が苦手です。負けた試合で見られる「相手の走るコースに横走りで待ち伏せして行われるタックル」では当然、高い姿勢となり相手に振り払われます。ひたすら「低く」と強要すると、「待ち伏せして、しゃがむタックル」になるだけで失点が減ることはないでしょう。

相手よりスピードに乗っていると、脚を前後に大きく開いて走ることに自然と姿勢は低くなります。そのまま、強いヒットが出来て、脚を動かし続けられれば、相手の勢いに負けて身体が起き上がることもなく、接触したときの姿勢のまま相手を倒すことが出来ます。つまり、7つの項目が全てキチンと出来ると結果的に、偶然「低いタックル」になっていることが多いのですね。

表題の～キーワードから「低く」を一時除外しませんか？～の意味は、最初から「低く」だけを意識すると、目指しているタックルからはむしろ遠ざかってしまうことを指しています。（「一時」としたのは、いずれ、中学・高校では「低く」を目指すステップに進むと思われるからです。【御参考】日本代表全カテゴリーの強化スローガン⇒「4H」＝低く・速く・激しく・走り勝つ）

子供達には（もしかすると大人にも）最初に意識させる新しいメッセージ、つまり「低いタックル」に代わる「シンプルなメッセージ」が必要です。このことについて、コーチ研修会では「前に出るタックル」を標榜しています。相手に抜かれること、すれ違うことを恐れずに「先ず前に出ること」からスタートすれば、次第に7項目が埋まってくると考えています。タックルポイントがより前になることにより、相手がスピードに乗る前に捕らえることが出来ます。戦略・戦術上も良いことがたくさんあります。（昨年の県大会号を参照下さい。）

どうかこれからは、グラウンドでプレーを見るときも、往復の道中でも、ご家庭での会話でも、タックルが「高いか低い」ではなく、タックルが「前に出ていたか、いなかったか」の視点で語りかけてみて頂けませんか。

中学生

県大会

DAGSコーチ 小松 正己

神奈川県中学生スクールの県大会は3つのブロックに分かれ、予選リーグを戦い、そのブロックでの順位に基づき決勝リーグで順位を決めます。神奈川DAGSは、予選リーグで田園RSには52-15、相模原・川崎市RS(合同チーム)に53-5で2勝0敗の1位で通過しました。決勝リーグでは横浜RSに12-38、横須賀市RSに5-27で敗れてしまい、神奈川県RS中学の部で3位となりました。毎回のきびしい練習を乗り越えお疲れ様でした。決勝リーグでの宿敵横浜RSに善戦しましたが、一寸の差での負けでした。これから、この一寸の差をどのようにするかを考え続けてくれればと思います。中学の残り少ない生活を有意義にしてください。

『DAGS で初めての県大会』

中学1年 野川 亮

中学になって初めての県大会、小学部の時から人数は9人から12人に増え、コートも2倍になり、少し戸惑いました。県大会前、あまり練習に参加出来なかったこともあり、巧く出来るか不安でした。僕が参加出来た2試合は負けてしまいましたが、12人制の広いコートでのラグビーの感覚は少し掴めた様に思います。これからも出来る限り、練習に参加し、上達出来る様に頑張りたいと思います。コーチの皆さんこれからもよろしく願います。

「県大会でのプレー」

中学2年 木下 元太

今年の県大会は、残念ながら3位に終わってしまいましたが、3年生が2年生をフォローしてくれたので、まとまったチームでした。風太君を中心とした皆のプレーは素晴らしかったと思います。僕はあまりそのフォローに応える事が出来なかったのに、3年生はとても優しくアドバイスしてくれました。僕は、声にも工夫がなく、皆にわかりづらく通じていなかったり、キックもダメだったり皆に迷惑をかけてしまったと反省点がたくさんあります。でも僕の中で少し成長した事があります。それは昨年に比べてタックルが少し上手くなった事です。昨年まではタックルは全て上半身に当たり、なかなか倒す事ができませんでした。でもこの県大会で下半身に行ける様になったと手応えを感じています。来年はいよいよチームをまとめていく年。絶対優勝したいので、もっとタックルをして、いいプレーができる様に一生懸命練習したいと思います。

『県大会』

中学2年 嘉数 泰盛

今年の県大会は、9月23日大津グラウンドで相模原RS/川崎RSの合同チームとの試合から始まりました。僕らのチームは53対5で圧勝し、2戦目は田園RSと10月2日北里第2グラウンドで対戦し、この試合も勝利で終わることが出来ました。しかし、この試合はDAGS側の反則があり、その瞬間から公平でなくてはならない審判が、全面的にDAGSの反則ばかり指摘し厳しい中での試合となりました。僕らの代では、そのようなにならないようしたいと思います。10月9日大津グラウンドで横須賀戦、10月16日保土ヶ谷グラウンドで横浜戦、この2試合は3年の先輩たちと気合いを入れて対戦しましたが、敗戦で終わりました。3年の先輩たちと最後の県大会だったので、結果が残せなかったのはとても悔しかったです。先輩たちが卒業するといよいよ僕らのメンバーでやっていかなければなりません。弱いチームイメージが今からあり、僕が一番に声を出しメンバー全員でそのイメージを吹き飛ばします。今年のDAGS 乞うご期待！

6年生



大森コーチ 佐々木兄弟父 梅津暁父 亀田幹太母 山中康大母 エラガデヴィッド母 梅津暁母 小作航平母 佐々木兄弟母 山本凌介母

木下コーチ 山中康大 越野良我 山本凌介 佐々木晃平 梅津暁 佐々木陽平 梅津葵ちゃん 山中大治君
風間コーチ 三沢コーチ 三浦校長 小作航平 亀田幹太 白川幹斗 エラガデヴィッド 加賀チーフコーチ

6年生チーフコーチの県大会

6年チーフコーチ 加賀 司

6年生 県大会お疲れ様でした。

夏合宿とその後のミニ合宿で全員のレベルUPを図りましたが、その後受験組の離脱と航平のけがもあり満足できる練習もできないまま、県大会を迎えました。

今回の県大会は藤沢B、横浜B、大和のグループに入り、10/10 横浜Bとは日大Gで行われ 7:70 で負け、10/16 藤沢Bとは中野Gで行われ 0:63 で負け、10/23 大和との最終戦は麻溝スポーツ広場で行われ 47:41 で勝ちと言うことで1勝2敗の成績でした。グループの成績は藤沢が横浜B、麻生に勝ち、横浜Bが麻生、大和に勝ち2勝1敗で優勝、麻生と大和が1勝2敗でしたが一応準優勝です。

2敗で迎えた最終戦は麻生リードも終盤に逆転され、敗戦濃厚の状態最後の最後に逆転する素晴らしいゲームでした。

一番警戒していた大和の14番に走られて簡単に先制されましたが、すぐに取り返してその後互角に試合を進め 後半も麻生5mでの大和ペナルティからトライされて一進一退でリードするも最後に連続トライで逆転されるが 最後には全員が集中力を切らず、絶対に勝つぞと言う気持ちで暁が飛び込み勝ち取った逆転のトライです。今までの2敗の悔しさを拭き晴らすような全員で勝ち取った1勝に父母・コーチ一同感動した試合でした。

今までの悪かったところが修正され、全員が自分の力を100%、最後まで集中力を持って絶対に勝つぞと言う気持ちでプレーできた素晴らしい試合でした。感激・・

アフターマッチファンクションでも藤沢RSのレフリーから麻生はモール・ラックにしないで素早くボールを廻すプレーができていたとのことでした。

夏合宿以降受験組があまり練習に参加できない状況で初戦は航平が練習中に腰を痛め結果的には腰椎分離の怪我、最終戦も康大が左腕を痛め、骨折と言う状況で5年生の助っ人を借りてなんとか県大会を終了できたことに安堵の気持ちです。関係していただいた方に御礼いたします。

さて、次は2月に予定されているファイナルカップです。受験組は2月中旬から合流しますので、それまでの4か月弱、少ない人数ですが、個人のレベルUPを図り、優勝を目指して練習していきます。

次にこの原稿を書く時は卒業号です。結果より最終戦のように素晴らしい試合ができた事が報告できればと思います。また全員中学でもラグビーを続けて行くを書いてくれることを期待します。

以上

最後の県大会！

6年コーチ 三沢 洋

みんな県大会は、楽しかったかな？ 全力を出せたかな？

結果は想像していたモノとは違うかもしれないけど“終わりよければ全てよし！”という言葉もある通り、最後のゲームを勝利で飾る事が出来た事は坂道ダッシュや夏合宿をみんなで乗り越えたからだと思おう！

本当にいいゲームだった！

今のメンバーでラグビーが出来る時間は残りわずか！

受験組もそうでないメンバーと一緒にラグビーが出来る時を大切にしよう！ラグビーを楽しもう！

コーチは最後までみんなと一緒に練習するよ！

最終戦の思い

6年コーチ 木下 義之

今年の6年生は11人と少ない子供たちで、全勝優勝を目標に、まず基礎体力アップと1試合を概ね走り切れる走力、メンタルを向上させる為に、冬から坂道ダッシュを再開し、始めたばかりの時期は、全員がフラフラでタイムは落ちて行くばかりでしたが、キャプテン康大、ゲームキャプテン凌介を中心にみんなでお声を掛け合い、励まして毎週10本消化し、ミニ合宿まで行ってきました。

8月14日、対戦相手が決まった時、強豪チームではあるが、大会まで約二ヶ月ミニ合宿と日曜日の練習を充分に行い全勝させたいと思った。

それから全員が揃う時間は決して充分とは言えなかったが、みんなそれぞれに目標を持ち準備したと思う。

戦績は、1勝2敗でしたが、1勝は本当に素晴らしい内容の試合でした。数人の子供たちには見られてしまいましたが、目頭が熱くなりました。感動をありがとう。

皆、どんな気持ちで、最終戦に準備し、試合中も何を思いプレーしていたか、忘れずにいてください。

また、苦しくなった時、辛くなった時この試合のことを思い出して下さい。

県大会を終えて

6年コーチ 大坪 功

6年生の皆！最後の最後に感動をありがとう！最終戦は本当に皆が一丸となつてつかんだ勝利！勇敢なラグーマンの顔つきになり、気持ちが前面に出た最高の試合でした。最後にやっとエンジンが全開になり、ラグビーをおもいきり楽しめた結果だと思う。

コーチとしては、君たちのやる気スイッチがどこにあるのか？初戦から、いや普段の練習から、なぜもっと早く入れられなかったのか？責任を感じるし、そのスイッチの場所はまだまだよく分からない。。。つくづく、コーチングの奥の深さを感じる。

でも、まだ終わってないぞ！大会期間中怪我等で力が十分発揮できず、モヤモヤとしている君たちへの最後のチャンス！ファイナルカップは、今まで長い間このスクールで共に歩んできた、このチームで出来る最後の公式戦です。準備期間はあまり無いと思うけど、とにかくおもいきりラグビーを楽しもう！

「県大会を終えて」

6年 山中 康大

最後の県大会が終わった。くやしい試合がたくさんあった。負けた2試合はどちらも最初に相手に点をとられてしまい、チームの勝ちたいという気持ちが薄れてしまい、ズルズルとトライを取られてしまった。最終の大和戦では、そんなくやしい思いはしたくなかったので、チーム皆で「絶対に負けれない。」という気持ちでのそむことができた。最初の1本は相手にトライを取られてしまったが、すぐに円陣を組みチームの気持ちを盛り上げることができたので、次のプレーで1本取り返すことができた。この1本で「やれる！」という気持ちを全員が持てたと思う。そしてその気持ちを最後まで全員が持ち続けたので、最終戦は勝ったのだと思う。やはり、勝ちたいという気持ちと全員が同じ気持ちを持つことが本当に大事だということがこの県大会でわかった。最後のファイナルカップでは初戦から全員の気持ちを一つにして最高の試合をしたいと思います。

最後の県大会

6年 小作 航平

最後の県大会、ぼくは2試合目の朝の練習で、腰の骨を骨折してしまい、小学校最後の県大会として、かなり残念でした。その日の試合は後半出場したけど、全然プレーができませんでした。最終戦の三試合目は、できるかぎり頑張って応援しました。その大和戦は、前に戦ったときにぼろ負けしたけど、今回は前半からかなり互角に戦っていて、バックスのサインプレーも、カンペイやカラクロ、クロスなどがどんどん決まっていたし、フォワードもその後の二次攻撃に間に合っていて、点を取られて取り返してが続いていたので、フォワードもバックスもとてもいいと思いました。それに、トライを取った後のコンバージョンをける暁も、1回はずしたけど他は全部決めて、すごいと思いました。そのすごい試合に出られなくて残念だったけど、今は早く腰を治して、2月のファイナルカップ間に合わせて、試合に出て頑張りたいと思います。

県大会を終えて

6年 山本 凌介

ぼくは、県大会前に戦った茅ヶ崎に勝ったことで、県大会を優勝し、強敵横浜にも勝てる！という強い自信を持ちました。しかし、人生それほどあまくはなく気がついたら横浜、藤沢に負けてしまいました。そして、あっと言う間に最後の試合の大和戦で、ぼくは気持ちで勝とう！と決めました。気持ちで勝つには声とみんなを引っ張るプレーをすることだと思うので、この二つを重視して頑張りました。その思い通りみんなで心をつにし、気持ちで勝てたため勝利を得ることができました。ぼくは、この県大会を通じて気持ちで勝つと必ず勝てるということを教わったので、6年生最後のファイナルカップでは気持ちで勝ち優勝したいです。

最後の県大会

6年 白川 幹斗

僕たち6年生は、今年で最後の県大会でした。1試合目の横浜Bとの試合では、最初エンジンがかからず、声出しがうまくいわずにボロボロになってしまい、後半、フォワードが突っ込みトライをとることはできましたが、負けてしまいました。2試合目の藤沢B戦では、最初の5分は僕たちのペースで試合が進みましたが、タックルが決まらずに抜かれてしまい、僕たちはワントライができずに負けてしまいました。そして県大会最後の試合、大和戦。みんなが気合いを入れて挑んだ。前の試合の反省を生かし僕は声だしをした。そして、みんなが相手にトライを決められても気持ちをいれかえて、キャプテンの康大が怪我をした時も気持ちをいれかえ、僕たちのペースを最後まで続け、そして、勝った！そして、みんなが喜んだ！やっと1勝出来た。次の目標は、ファイナルカップで優勝することです

最後の県大会

6年 エラガ デヴィッド

最初の2試合は、とても悔しい結果になってしまった。
どうして点が入らないのかとても考えた。もっと、仲間と話し合いをしたかった。
このまま、大和戦も負けてしまったらと、あせったけど、五年生の力も借りて勝つ事が出来た。
五年生に見習う所がたくさんあった試合だったと思う。五年生 ありがとう！
去年の県大会とは違って、たくさん学ぶ事があった。この事をいかしてファイナルカップをみんなで戦いたいと思う。

県大会を終えて

6年 亀田 幹太

僕はこの県大会を今までの県大会の中で一番良い大会にしたいと思ってのぞみました。一試合目では、後半の中盤頃に小作が持ち込んでボールをみんなで押し込んでトライをとったシーンが心に残っています。二試合目にもこないいいプレーがあったら良かったなあと思いました。二試合目では、一番最初のキックオフで相手の陣地に入ってあとトライまで十数メートル位まで持ち込んだけれど、そのあとに走られて逆にトライを取られてしまいました。そのシーンが一番心に残っています。結果も完敗してしまってとてもむなしく終わってしまいました。三試合目は、最初にトライを取られたあと、すぐにトライを取り返したのが一番心に残っています。そのあとも、取られても取り返していき、とてもいい試合が出来たと思いました。まだファイナルカップもあるので、この県大会の三試合目のような試合が出来たら良いと思います。そのためにこれからもしっかり練習していきたいと思います。

「小学校 最後の県大会」

6年 梅津 暁

ぼくが小学校最後の県大会で頑張ったことは、早いパス出しです。1試合目と2試合目では、なかなか足が踏み込めず早いパスが出せなかったけど、3試合目では、みんな気合い入っていて気持ちが一つついていて、自分も早いパス出しをやりようと思っていたので、早いパス出しができました。
この県大会で学んだことは、一人ひとりの気持ちでみんなのプレーが変わるということです。県大会で学んだことを生かしてファイナルカップは最初から気合いを入れ、みんなの気持ちを一つにして勝っていきたいです。

最終戦での感動をもう一度

6年 山中 康大の父 山中 淳郎

昨年が強豪ブロックの中で準優勝でしたので、いよいよ最後の県大会で優勝を勝ち取って欲しいと臨んだ最終学年でしたが、春から我が息子をはじめとして受験組が思うように練習に参加できずチームとして十分な練習ができないまま県大会がやってきてしまいました。初戦(横浜)、第2戦(藤沢)ともに準備不足が否めない形での大敗で、力の差はそんなに無いので気持ちで圧倒されているように見受けられました。特に1本とられるとズルズルと連続して取られてしまい気持ちが萎えてしまうという感じでした。

最終戦を前に息子には「もし先に1本取られたら、皆で集まって気持ちを入れなおせ！それがキャプテンの役目だ！」と送り出しました。最終の大和戦では中学生並みの体格の選手がいてその子を止められずにさっそく1本取られてしまいました。観戦していて「まずいな、いつもの負けパターンだ。」と思った矢先に、麻生の6年生が集まって話しているのが見えました。すると試合再開後、相手の意表をついた見事なブラインド攻撃で1本すぐに取り返すことができました。多分、6年生たちもこの1本取ったことで“やれる！”と思ったんだと思います。最終戦にしてようやく全員が気持ちを一つにして、最後まで集中して食らいついたことで勝利を手にすることができました。この気合いと集中力が初戦からできていたら・・・と「たられば」を考えてしまうほど子供達は素晴らしく、見ていて感動をしてしまいました。6年生の子供達が自分達で話し合って頑張れたことが大変素晴らしいことだと思っています。また十分な時間も無い中でここまで子供達の気持を盛り上げてくださった三浦校長、加賀チーフをはじめ6年生コーチの皆様本当に感謝しています。有難うございました。

さあ、残るは2月のファイナルカップです。ぜひ大和戦での集中力を忘れずに、10人全員で最後まであきら

めずに気持ちを前に出したラグビーをしてください。そしてまたコーチ、父兄を感動させて小学校ラグビーを卒業してください。期待しています。

5年生



(最前列) 向野コーチ(1列目左から)・野川真・安井健太・寺田大起・伊藤大吉・大竹竜矢・宮澤朋樹
(2列目左から) 勇太父・小作コーチ・中司大也・菅原健人・齋藤裕太・西野響太・濱田透唯・横島拓朗・勇太母・勇太妹(3列目左から)・山中コーチ・大森公乃祐・大坪勇太・佐藤公亮・井上謙亮・真山巧也・川原奨平・安藤慎吾・萩原睦・拓朗母(4列目左から)・宇田コーチ・竜矢母・公亮母・謙亮母・大起母・大起弟・拓也母・真母・睦母・睦妹・渡部コーチ・透唯母・健人父

「2011年度 5年生 県大会」

5年生チーフコーチ 小作 紀昭

県大会の対戦相手が決まった直後に5年生2チーム(赤・紺チーム)の大会ブロックを決める校内戦をアタックディフェンスの時間に行った。

毎週、練習最後に行く、赤・紺のアタックディフェンスの時間はいつも通り。直前までの雰囲気も・・・

昨年敗れた田園Aが同じブロックに入り、もう一方のブロックの強豪は横浜A。

勝利したチームキャプテンが県大会のブロックを選ぶ。そんな校内戦。

どちらも勝つチャンスがある中、最後の最後、1本差で紺が制し、赤のキャプテン、大也は目を真っ赤にした。紺のキャプテン、朋輝は田園のブロックを選んだ。

5年生の“仲間同士の真剣勝負”を私は見入った。

県大会の結果

〈Aブロック〉

- 7vs33 横須賀A
- 70vs 7 川崎A
- 26vs14 グリーン
- 14vs75 横浜A

<Bブロック>

●14vs61 田園A

○35vs 28 横浜B

○77vs 0 横須賀B

●14vs19 大和A

麻生5年 4勝4負

成果)

- ・敗けた悔しさを態度で示し、気持ちが伝わってくる試合をやってくれた。
- ・皆が校内戦と同じ気持ちでそれぞれの役割の中、精一杯やってくれたと思う。
- ・全体としてチーム力は確実に上がっている。(ホトムアップ)
- ・子供達の気持ちの成長が一番の成果。

決意)

- ・子供達が頑張る気持ちを伝えるべく、コーチとして皆をいつも支えたいと思って、何でもやろうと思ひ、行動しようと思ふ。
- ・皆の小学校の記憶に残るはずの仲間とのラグビーの時間で私もやり切り、頑張る。

ご父兄の皆さんの学年全員の子供達への温かい気持ち。

それぞれの我が子への期待や夢にコーチとして応えたいいつも思ひます。

三位一体！五年の県大会！！来年も！！！！

「よく頑張った！5年生」

5年生コーチ 山中 淳郎

5年生の県大会が終了しました。結果はA、Bチームともに2勝2敗の5分の戦績でした。昨年の県大会で大敗した強豪チームにどれだけ追いつけるかを目標として年明けから2チームで切磋琢磨してきましたし、夏合宿から交流大会を通じて着実な成長を感じていたのどこまでやれるか非常に楽しみな大会でした。初戦でいきなり田園Aと当たる日程となり、最大の山場が最初に訪れてしまいました。昨年は1本も取れずに圧倒された相手でしたが、試合に出た全員が今のレベルでやるべきことをやり遂げた清々しい試合でした。試合後に田園のコーチからも「試合には勝ちましたが、組織的なプレーでは後半麻生さんにやられました。」と言っていました。

子供達は県大会8試合を通じて持てる力をそれぞれが発揮してくれました。強豪チームとも互角にやれることを自分達で感じとれたと思います。それが今大会の一番の収穫でした。特にアタックではどのチームにも十分に通用することがわかりましたし、麻生らしくつないでつないでのトライをいくつも取りました。接点での攻防でも一方的にやられることはほとんどなく、むしろ圧倒することが多くなってきました。(凄いぞ！5年生！)

一方課題はディフェンスです。ラインの意識はずい分と高くなりましたが、強豪チーム相手だと段々と接点付近でカタマリになり人数が足りなくなってしまいました。またタイムンがタックルに入れずに抜かれて苦しい状況になることが多々ありました。またルーズボールへの対応も相手に遅れることが多かったと思います。この課題を冬の練習でみっちり練習していよいよ最終学年に臨みたいと思います。

皆なら絶対にやれます！みんなで頑張ろう5年生！！

試合をしてくれたと思います。田園戦では前半に大差をつけられても諦めない気持ちで後半2本取りましたし、大和戦でも終盤の怒濤の巻き返し、横浜戦でも後半追いつかれそうになった時に縮こまらずに大きく回してのトライと試合運びでも成長を感じることができましたし、アタックは県内強豪にも十分に通用していることがわかりました。一方、さらに高みを目指す5年生としては、この県大会を通じて課題も浮き上がりました。ひとつは試合の入りです。負けた田園戦、大和戦は相手に先制+連続トライをされています。勝った横浜戦、横須賀戦は麻生が先制+連続トライをしています。先制するのが一番いいのですが、先制された時にすぐに取り返すことが一番大事です。そのために全員の気持ちをそこで高めることが重要で、キャプテン、ゲームキャプテンの役割が重要になってきます。

「県大会を終えて」

5年生コーチ 向野 禎明

悔しかった田園の敗戦から早いもので一年間が経過し、春、合宿、秋と順調に結果を出し、さらに、昨年敗れた田園への挑戦権をスクール内マッチで決め、よい緊張感も持ったまま県大会に入りました。最終的には、赤チーム、紺チームともに2勝2敗。結果は少し残念でしたが、県下の強豪チームを相手にどの試合も麻生 RS として恥ずかしくない内容でした。しかし敢えて勝負を分けたところを言うとするなら、「激しさ」と「気持ち」ではなかったかと思っています。来年はいよいよ最終学年の6年生となります。来年の冬のスクール運動会で、三浦校長から優勝の表彰状をもらえるように、最後の一年間がんばっていきましょう！

「県大会を終わって」

5年生コーチ 武井 智之

5年生の県大会の結果は、2チームエントリーでいずれも2勝2敗という成績でした。自分達のやりたいラグビーができた試合は勝利し、やりたいラグビーがさせてもらえない時には負けた、その結果が2勝2敗であった。

やりたいラグビーをやるには何が必要で何が足りないか、チーフコーチを中心に大いにコーチ陣は話し合い考え検討します。

皆は信用して安心して付いて来て下さい。君達は確実に強くなっています。

そしていよいよ6年生、「小作組」の目指すラグビーを完成させ、県大会優勝で締めくくりましょう。

5年生 安藤 慎吾

ぼくがこの県大会であまりできなかったところは、低く一発でしとめるタックルです。特に田園戦では、タックルが高く、ずるずると引きずられることが多くて、低いけたときも吹っ飛ばされることがありました。これからは、練習でも低いタックルを意識して、アタックディフェンスなどをやりたいです。

ぼくは、この県大会で多くの課題を見つけました。なので来年は課題をこくふくして、チームの役に立てるようにがんばりたいです。

「県大会」

5年生 伊藤 大吉

僕は、県大会の前に、親指を骨折してしまい、去年から楽しみにしていた田園戦に出られず、悔しい思いをしました。2戦目からは、出場出来たのでうれしかったです。横浜戦は、久しぶりに試合に出たけど、そこまで活躍できなくて悔しかったです。でも、勝てたので良かったです。大和戦は、負けてしまったけれど良いオーバーやパスをつなげて良い試合が出来たので、良かったと思います。最終戦の横須賀戦は、圧勝だったけれど少し反省するところがあったので、そこを直していきたいと思いました。結果は、2勝2敗だったけど、みんなで全力でやりきった県大会でした。

来年は、けがをしないように気をつけて全勝優勝目指してがんばりたいです。来年は、最高学年なので県大会だけでなくファイナルカップもあるので練習を休まずに真剣に取り組みたいです。

「来年の目標」

5年生 井上 謙亮

今年の県大会で印象に残っているのは川崎戦です。なぜなら赤チームのペースで試合を進められてたくさんトライがとれたからです。

来年の県大会の目標は、うまくラインアウトで仲間にボールをわたしたいです。今年は遠くにボールをわたそうとなげても相手チームにとられてしまうことがあったので、来年はとられないようにと高く上げる練習をしたいです。

「初めての県大会」

5年生 大竹 竜矢

ぼくは、ラグビーを始めてから、初めての県大会でした。
ぼくは、タックルとオーバーで勝つことを目標にして、試合をしました。
オーバーはできたときとできなかったときが、ありました。
できなかった理由は、自分より、相手のほうが、低く入られたり、フォワードが、オーバーに入るのがおそかったから、できないときもありました。
オーバーで、負けたときは、とてもやさしかったけど、勝ったときは、とてもうれしかったです。
タックルもできたときとできなかったときが、ありました。
できなかった理由は体じゃなくて、手でいってしまったからです。
でも、タックルができたときは、うれしかったです。
来年の県大会は、オーバーは、相手より速く入ることと、相手より低く入ること、タックルは、手じゃなくて、体で、当たることです。
そして、もっと声を出すことです。

「5年の県大会」

5年生 大坪 勇太

僕が県大会 4 試合の中で一番悔しかったのは初戦の田園戦です。何故かと言うと、ボロ負けしたし、僕自身、田園と言う名前を意識し過ぎて、自分の力を出し切れなかったからです。でも、残りの 3 試合は初戦の悔しさをバネに、横浜戦、大和戦と自分なりに少しずつ良い試合を出来るようになりました。最終の横須賀戦では、最後まで集中して、みんなでタックルをして、トライを決めて完封出来たので、とても嬉しかったです。最終戦の勢いで、田園戦が出来れば勝てると思うので、来年の県大会は、もっともっと自信を持てるように練習して、全勝優勝もしたいけど、それよりとにかく田園に勝ちたいです。

「県大会の感想」

5年生 大森 公乃祐

今年の県大会はとてもやさしかったです。それは強いチームに負けてしまったこと。原因は「勝ちたい」と思う気持ちが相手の方が強かったからではないかな、と思います。
良かったところもありました。それは、「パスをつないで個人プレーではなくトライをとれたこと」と「オーバーが少しできるようになったこと」です。フォワードはラインアウトの時、正確なサインでボールをとり、バックスはスクラムの時、相手がボールをさわったら三人でディフェンスにいたり、アタックの時はサインを使ったり、色々なプレーの仕方を覚えました。そういうのを試合でやると前よりもプレーのはばが広がって、楽しくなりました。
ぼくが県大会でできたことは、ゲームキャプテンをやって声を出して、仲間をひっぱれたことと、フルバックという新しいポジションをやったことです。フルバックはチームの最後のとりでなので、たくさんタックルをして、相手を止めることができました。
来年の県大会は今年できなかったことは練習してできるようにし、今年できたことはそのまま来年もできるようにし、ゴールキックを一本も外さないで、全部決めたいです。
今年負けたスクール、勝ったスクール関係なく、相手よりも「勝ちたい」という気持ちを大事にして、来年こそは絶対に県大会を優勝したいです。

「5年生の県大会を終えて」

5年生 川原 奨平

ぼくは県大会でスイープを頑張ったけれどフォローに行けなかったこともあった。これからは試合の中でできるだけ多くフォローにいけるようにしたい。また、対戦相手によってはスイープに入っても力で負けることがあり、悔しい思いをした。来年もスイープやフォローの技術を身につけて、試合の中で生かしていきたい。このことを目標に、相手のFWが大きくてもスイープで押し勝てるようになりたい。そして、タックルに行った後など素早く動いて、次のプレーに参加していくことも目標だ。そのためにも、まず低いタックルで

相手をとめることが必要だと思っている。6年生の県大会で優勝することを目指し、休まずに練習したい。

「県大会の感想」

5年 齋藤裕太

今年の県大会は2勝2敗でした。去年より1勝、減ってしまいました。すごく悔しいです。僕のポジションはハーフなので、来年頑張りたいことはモールやラックからのすばやいパスだしです。来年は全勝したいです。

「今年の県大会」

5年生 佐藤 公亮

今年の県大会でがんばったことはタックルです。特にがんばることが出来たのは大和戦です。大和戦ではたくさんタックルをしましたが、相手を倒すようなタックルはあまりできませんでした。倒すタックルをこれからの目標にします。もう一つ意識してがんばったことはオーバーです。ハーフがボールをもらってバックに回せるようにつなぐラグビーをがんばりたいです。来年は6年というケジメの年です。たくさんのことを学びたいと思っています。よろしくお願いします。

「5年生県大会での感想」

5年生 菅原 健人

ぼくは、県大会で試合をして良かった所は、スタンドとセンターでクロスをしてうまくスピードに乗れたことです。そして、そのクロスでトライが決められたので良かったです。悪かった事は、タックルの時に相手の短パンを目がけて入れなかった所と、何点が取られてしまうと気持ち下がれるくせがある事です。これらの悪かった所は、次からは気を付けて行きたいです。自分が、一番思い出に残った試合は、横浜ラグビースクールとの試合で、何点もトライを取られてしまったことです。次からは、タックルを止めて行きたいし、その横浜に勝ちたいです。これからは、県大会でのミス直して、全勝を目指して練習にはげんで行きたいです。

「県大会を終えて」

5年生 寺田 大起

県大会前からぼくが思っていたことは、「麻生はフォワードが強い」と言われるようになりたいということです。県大会では、オーバーをがんばりました。またラインアウトの時に相手に負けませんでした。グリーン戦では、相手のプレッシャーがすごくて、ハーフタイムの時に小作コーチに「オフサイドでつっこむ時にもっと低く行けば相手を倒せる！」と言われたので、必死で思いっきりあたったら倒すことができやっと思えました。何より一番うれしかったのは、最後にフォワード全員でトライを決めたことです。麻生はフォワードが強いと言われることを目指していきたいです。そのためにもタックルを決めることができないので、タックルをコーチに教えてもらいうまくなりたいたいです。

「五年 県大会」

5年生 中司 大也

県大会までの練習を仲間と必死にがんばった。そして全力で大会に臨んだ。一試合目、グリーン相手に勝ったので「この調子で次もがんばろう！」と思った。次の試合は横浜だった。かなり気合の入る試合だった。キャプテンとして、チームを引っ張っていかうと思ったが、調子が出ずチームを引っ張れなかったと思う。その結果、かなりの大差で負けてしまった。ぼくは悔し泣きをした。三試合目は大差で勝ったが、完封できなくて悔しかった。ぼくがこの試合で感心したことは、相手のキャプテンだ。相手のキャプテンは、少しチームがあせってきたなと思ったら、みんなを集めて話し合い、気持ちを取り直していた。ぼくにはまだその力がないと思った。最終戦の相手は強かった。前半はいい勝負だったが、後半、麻生のちょっとしたミスで点を取られてしまっ

た。「このままでは・・・」と思った。ぼくは、みんなにもっと気合いを入れてチームを盛りあげた。みんな仲間を信じあいワントライすることができた。とてもうれしかった。来年は絶対全勝優勝する！！

「悔しかった県大会」

5年 西野 響太

ぼくは、今年の県大会で初めて悔し泣きをしました。理由は、がんばったのに負けてしまったからです。だからこの悔しさを忘れないで、練習をがんばってうまくなりたいです。来年の県大会では、今年出来なかった低くタックルをする事や自分の役割を理解して練習の成果を出して、全勝優勝をしてうれし泣きをしたいです。

「今年の県大会」

5年生 野川 真

今年の県大会で出来たことは、タックルと声を出してチームを引っ張る事、コンバージョンキックを決める事です。出来なかった事は、倒すタックルです。田園戦や大和戦ではタックルにいても、パスをつながれてしまい、とても悔しい思いをしました。体が大きい相手ほど低くタックルにいかないと、止められないし、パスをつながれてしまうので、もっと低くするどいタックルを身に付け、来年こそ絶対に田園を倒して、優勝したいと思います。コーチの皆さん、今後ともよろしくお願いします。

「県大会」

5年生 萩原 睦

ぼくは県大会で、ウィングで前半だけ試合に出ていました。今年の県大会でぼくたちのこんチームは、2勝2敗でした。だけど、ぼくとしては今年、公式戦での、初トライを2回も決めたので、プレーでは満足しています。

1つ目のトライは大坪君がゴール前でつかまったところをぼくがもらってトライをしました。

2つ目のトライはゴール前でぼくがパスをもらって5mくらい走ってとびこんでトライをしました。

来年は田園に勝って全勝したいです。

「成長できた県大会！！」

5年生 濱田 透唯

今年の県大会は 全試合 とても白熱した いい試合ができました。試合をするたびにみんなが成長していつて負けた時もあったけど今までとは違うすごい試合ができたと思います。

来年は小学生最後なので全勝したいです！

「県大会で感じた3つのこと」

5年生 真山巧也

今年の県大会では3つのことをがんばりました。

一、ラグビーの試合ではすごく集中でき、他のことは何も考えられなかった。

二、ラインアウトで仲間にボールをうまく渡せた。

三、相手がボールを持っているときにボールにからめたので、相手がボールをパスするのを防ぐことができた。

「ことしの県大会で反省、できたこと」

5年生 宮澤 朋輝

ことしの県大会での反省は負けてくると声が出なくなることとひくくタックルです。

でもラインでのパスやよぶ声が出せたのでよかったです。

来年やこれからは声を出しタックルをして優勝したいです。

「県大会」

5年生 横島 拓朗

県大会でがんばったことは、前に出てすぐたおれないことです。それでもパスできなかつたりしたので、今度はみんなでやりたい。それと、反省していることは、ひとりで止められなかつたり、ケガをしたことです。だからひとりでズバっと止めたりして、みんなでパスを回してやりたい。もっとスイープして、ボールを回してトライを決めて、勝ちたいです。

5年生 安藤慎吾 母

県大会、みんな本当によく頑張っていて、どんどん成長していることが伝わってきました。親子共々初めての県大会でしたが、とても感動しました。こんな仲間に恵まれて、幸せだと思います。

慎吾は2年半ぶりのラグビー、いろいろ心配していましたが、ラグビーをしているときがすごく楽しいようで、私もうれしく思っています。(2年生の頃に比べたら体力もだいぶついたようです。2年間ソフトボールで土日の練習をしてきたからかもしれません。)

コーチの皆様には、いつも本当にお世話になり、感謝しております。これからもよろしく願いいたします。

「初めての県大会」

5年生 大竹 竜矢 母 大竹 優美

今年の二月に入校して八ヶ月、初めての公式戦。私の方が緊張と不安で一杯でした。

ちゃんと試合ができるのか、とにかくチームの足を引っばる事だけはしないでほしい…。

そればかり考えて試合を見ていたように思います。

それとは反対に息子はいつもの調子で気合が入っているのかいないのか…？。

でも試合を重ねていくうちに、チームの誰かが倒されて苦しんでいる姿、負けた時のくやしさをを感じるうちに、チームのみんなと戦って、勝ちたいという気持ちがだんだん大きくなっていったように感じました。自分がオーバーしたボールをチームのみんなが繋いでトライできたらどんなに嬉しいか、心と体で感じる事が少しはできたのではと思っています。

そして何より、三浦校長をはじめ、五年生のコーチの方々、ご父兄の方々、そして子供達、四年の終わりに入校した私達親子を本当に暖かく、まるで前から一緒にプレイしているように迎えてくださり、改めて感謝しております。そんなみんなの気持ちに応えられるよう、来年の県大会では大きく成長した姿を見せられればと思っています。

五年生のみんな

本当にありがとう！！

そしてこれからもよろしく！！

「感謝」

5年生 中司 大也 母 中司 倫子

今年も熱い県大会が終わってしまいました。

5年は、全勝は逃したものの、強豪チーム相手にもひるむ事無く立派でした。

子供たちの真剣に試合にのぞむ姿を、私たちは愛情たっぷり心を一つに応援しました。そして、たくさんの感動と勇気をお子たちからもらいました。

子供たちは、麻生のラグビーからプレーだけではなく、たくさんの事を学んでいます。

負けて悔し涙をながす子、仲間のファインプレーに肩をたたきながら称える子、仲間を心配し励ます思いやり、ミスを責めるのでは無くチーム力を上げようとする向上心…そんな姿を見るにつけ、麻生ラグビースクールそしてコーチの皆様には感謝しても、したりない程の感謝の思いでいっぱいなのです。

6年生ではさらに仲間を大切に仲間を信じ、いつも熱心なコーチの皆様のご指導に報いるべく、是非とも全勝優勝してほしい…ですが、それより何より悔いのないよう全力でのぞんでほしいです。

子供たちの成長を信じています。

「モチベーション」

5年 宮澤朋輝の父 宮澤秀毅

今年の県大会、5年生は2チームとも2勝2敗でした。
同じ日に両チームが勝利することはありませんでした。
本来の実力を出せば勝っていた試合もあったように思います。
プロゴルフ界では、男女とも韓国の選手が賞金王と賞金女王を獲得したとのニュース。
韓国では小学生から学校を休んでまでゴルフの練習をしているそうです。
さすがにそれはやりすぎかと思いますが、先日ニュージーランドで行われたラグビーワールドカップ。日本は世界との実力差をまじまじと見せつけられました。
学校から帰って、近くの広場でラグビーができる環境の国と、ラグビーはまだマイナースポーツの域を脱しない国。その実力差でしょう。
普段からラグビーに接する環境があれば、モチベーションも上がり、日曜日の練習や試合への気持ちの入り方が違うんじゃないかなって思います。
全てのスポーツに関して、日本はまだただただな一って感じてます。

4年生



海老原とあ、小野こうた、古田くう、熊谷ゆう、向野りょうや、森田けいいちろう
齊藤がく、齊藤ゆうと、津国ひろたか、小島りょう、田中こうき

成長したからこそ見えてきた課題

4年チーフコーチ 曾我 浩

4年生のみなさん。
2勝1敗の準優勝の結果は、みんながチームとして成長して勝ち取った成果です。
優勝ではなかったけど、よくがんばりました。
田中こうき君、山崎たいが君、山家しょうたろう君の3人が新しくメンバー入りしましたが、3人とも短い期間の中で、それぞれ個性を発揮してチーム貢献してくれています。
4年生は、夏合宿を経験した自信と、新しい仲間が入ったことで、みんなの期待感が高まり、準優勝とい

う結果に結びついたと思います。

また、こうたは、チームキャプテンとして、試合前のストレッチをはじめ、チームアフターマッチファンクションの役割もしっかりとこなしていましたね。

試合後にアフターマッチで話をするのは、キンチョーもしたと思うけど、田園Cに負けたときの「悔しかったけど楽しかったです」は、試合を一生懸命に戦ったからこそ言える価値ある言葉だと思います。

みんなはもちろん、2年連続で準優勝という結果に満足はしていませんが、もっとがんばらないと、強いチームには勝てないということも、よくわかっていると思います。

ラグビーはタックルができなければ勝てません。

そのためには、冬の間基礎練習をしっかりこなして、今まで勝てなかったチームには、春には勝てるようにがんばって練習しよう。

ご父兄のみなさま。残念ながら準優勝でしたが、個々の一人ひとり、本当に成長したと思います。

夏合宿から4ヶ月経ちましたが、その間に初めてトライをとれたこと。コーチにほめられたこと。そして、お父さん、おかあさんにほめられたことが、子供たちにとっては、「次もばんぼうろう」という気持ちにつながると思います。

9人制になり、ポジションも変更がありますし、5年生に向けてより厳しい練習になっていくと思いますが、子供たち全員の成長を見守ってくださるようお願いいたします。

県大会を終えて

4年サブチーフコーチ 外岡 幸隆

4年生の県大会は、Eブロック 2勝1敗で、準優勝でした。

10/10 ○73- 5● 茅ヶ崎B 日大稲城G

11/ 3 ●21-26○ 田園C 横須賀大津G

11/23 ○35- 7● 横浜C 保土ヶ谷G

4年生は、この1年で大きく成長したと思います。夏合宿を越え、県大会に臨み、ブロック優勝をかけた田園C戦に惜敗しましたが、田園B、C、Dがそれぞれのブロックで優勝をしていることを考えると、麻生4年生も県内中堅レベルまでは到達してきたと思われます。奪ったトライは、少数のトライゲッターで取ったものではなく、8人で19本取りました。それぞれの持ち味(外側に振り切る/ステップで抜く/接点のサイドを突破するなど)を発揮して奪ったトライであり、全体の底上げを感じます。一方で、今年目標とした「戦うハート」を持つこと、「声をだすこと」は、まだ道半ばです。この3試合も24分間「戦うハート」を持ち続けることはできませんでした。どうしても集中力の空白ができ、田園に逆転され、茅ヶ崎、横浜に1本取られました。来年は9人制となります。「声を出し続けて」+「戦うハート」を持続させることは、最重要課題として取り組みながら、最終学年を意識したポジション変更と、パス+(苦手な)タックルの基本をじっくり練習し、もう1ステップ上を目指したいと思います。

県大会をふりかえって

4年 小野航大

県大会で良かったことは全試合でトライが取れたこと。2試合目、田園Cに負けたのは悔しかった。来年は田園に勝って優勝することが目標。

試合後のアフターマッチファンクションは楽しく話せた。自分たちのチームの事、相手チームの良かった事を話した。

「県大会を終えて」

4年 森田恵一朗

ぼくたちは、県大会で2勝1敗でした。この結果はきょ年と同じです。今回は優勝をしたかったです。けれどもできませんでした。

県大会でぼくはフォワードをやりました。2勝した試合は、オーバーができました。1敗(田園戦)は、相手におし返されてしまいました。このとき、いくら相手より早く行ってもおし返されてしまうことがたくさんあってマイボールにできませんでした。

来年は、フォワードだったら自分たちのオーバーをしてマイボールにする、バックスだったらちゃんとパスをまわして点がとれるようにがんばりたいです。

僕が県大会で思ったこと

熊谷 優

タックルとラックのこと。低い姿勢で激しいタックルができず、相手にぬかれて負けてしまったことがあったので、来年は低くて、激しいタックルをしたい。

ラックでは、高いせいで相手の選手にぶつかったので、ダウンボールもできず、相手からまれてボールを取られたり、相手ボールになってしまい、不利になったことがあった。来年は低い姿勢であたり、味方ボールにして自分たちを有利にしたい。

そして来年は優勝する。

「県大会をふりかえって」

4年生 津国 大喬

今年の県大会は、夏合宿から練習してきたことををはっきするよい機会だったと思います。

2回戦で対戦した、田園Cとの試合ではオーバーやタックルが負けていたところが反省点です。その反省から最終戦では、オーバーとタックルを低く入ることを目標にして試合にのぞみました。来年は9人プレーでの県大会で優勝したいです。

「くやしかった県大会」

4年 齋藤 裕人

今年の県大会は2勝1敗で第2位でした。

県大会で試合をしたのは、藤沢と田園と茅ヶ崎です。藤沢と茅ヶ崎には勝てたけど田園には負けてしまいました。とてもくやしかったです。

来年は優勝できるように、タックルの練習をがんばります。

来年に向けて

海老原翔空

来年はもっともっと低くタックルにいきたいです。ハーフだったらハーフごろしをしたいです。来年の県大会では絶対に負けないように防御を強くないです。僕は足が遅いので もっとはやくして ゴールに走られた時にとめたいです。

県大会を終えて

4年生 向野 椋耶

ぼくは今年の県大会はタックルをがんばることを目標にしていたのですが、なかなか体を当てることができませんでした。自分の中でも体を当てたいと思っているのですが、どうしてもうまく決められないので、その点はこの冬の間をしっかり練習していきたいと思っています。そして来年の九人制の時に練習のせいかを出したいです。

今年の県大会でよかったと思う点は、ちゃんとみんなにフォローにつけたことです。来年は今年できなかった部分をきちんとできるようになっていきたいです。

県大会を終えて

4年小野航大 母 小野 桂子

4年生のみなさん、県大会準優勝おめでとう。

毎試合、ハラハラドキドキしながら、観戦していました。負けた田園戦のあと、たくさんの子供たちが涙をながしていたのを見て、一緒に涙ぐんでいました。今年も多くの感動をもらい、このような体験ができている幸せをかみしめました。

航大は、今年の初めにキャプテンに指名された後、プレッシャーからラグビーをやめたいと言い、練習中も

帰りたいと言い、どうなることかと心配しましたが、コーチの皆様、優しい仲間を支えられ、1年間頑張ることができて、本当に良かったと思います。試合後のキャプテンとして、話すことも、最初は大変でしたが、県大会の頃には楽しんでいたようで、貴重な経験をつませていただいたことに、感謝申し上げます。まだまだ未熟な航大ですが、来年もどうぞよろしくお願いいたします。

「5年生に向けて」

4年 森田恵一朗の父 森田和秀

県大会が終わりました。結果は昨年同様準優勝。しかし今は何故か新しいシーズンが非常に待ち遠しい気持ちです。県大会を迎える過程で、子供達に責任感や競争心が芽生え始めました。

そして新メンバーも加わりました。5年生に向け準備は整いつつあります。是非良いスタートをきってもらい、大きく飛躍してもらいたいです。

コーチの皆様ビシビシと鍛えていただけます様お願い致します。

「2度目の県大会」

4年生 津国 大喬 父 秀一

昨年春に入校して1年半が過ぎ、2度目の県大会を迎えました。

今年の夏合宿ではきつい練習にも耐え、ほぼ休まず参加しているのを目にして「コイツ、強くなったな～」と感じていました。

また、県大会を通じて試合毎に成長しているとも思いました。試合の前の日には出来る限り、自分の最高のプレーをイメージさせ、どのような目標を持って試合に臨むのかを聞いたりしていました。その中で出てきた言葉が「フォワードとして、オーバー・タックルをしっかりと、ボールを味方に出す」というものでした。今年の県大会で初めてトライを取って喜んでいた親の気持ちよりも上の事を考えていたとは・・・驚きと、嬉しさと、恥ずかしい気持ちでした。

来年はどのようなプレーを見せてくれるのか、今から楽しみです。今では家でもスクワットと腕立て伏せに取り組んで準備万端のようです。

コーチの皆様、これからも厳しくそして優しくコーチングをお願いします。

「来年こそ！」

4年 齋藤裕人・母

いつもお世話になり、ありがとうございます。

県大会が始まると、裕人よりも私のほうが緊張しています…。そんな母に気持ちをよそに裕人は超マイペース…。それが試合まで続き…。

夏休み前に大怪我をして、「やりたくてもできない」辛さを味わったはずなのに…。もっと、もっとできるはず…。これからの1年は裕人の「本気」を引き出す方法をさぐる1年になりそうです！来年こそ！裕人の「本気」が全試合で見られるように！

コーチの皆様、これからもよろしくお願いいたします。

県大会が終わって

4年コーチ 小山田俊広

2勝1敗で準優勝。がんばりました。特に第2試合の対「田園C」戦は素晴らしかった。負けたけれどもみんなが集中していて、とてもいい試合ができたと思います。そして、アフターマッチファンクションでキャプテンの「負けて悔しいけれど楽しかった」のコメントに思わず涙が出そうになり声が出せないほど感動してしまいました。

これからも4年生秋の大会第2試合みたいな感動を味わわせてください。出来れば勝利して

<2011 年県大会を終えて>

4 年コーチ 宮内伸也

4 年生諸君、県大会お疲れ様でした。

試合結果や内容に関しては、悔しい思いを抱く選手もいるかもしれませんが、2 勝1敗の準優勝、素直に喜びましょう。堂々と誇ってよい試合でした。おめでとう。。。

苦しかった菅平合宿を乗り越えて、君達は立派にリトルラグーマンに成長しました。

下を向かず前を向いて、仲間を鼓舞する声をかけあえるようになりました。

仲間のナイスプレーには、少々手荒い祝福もかけられるようになりました。

時にはハッとさせられる、力強いオーバーを見せてくれるようになりました。

コーチから言われる前に自分達で UP するようになりました。

来年はどんな姿を見せてくれるのか、楽しみにしています。

課題

4 年コーチ 菅原 司

4 年生諸君、ここまで良く頑張った。一人一人で見ると、それぞれがこの一年ですごく成長しました。少なくとも試合に勝つことができるようになりました。ここから来年に向けては、負けないチームを目指しましょう。

負けないという意味は、「試合に負けない」のはもちろんですが、「自分に負けない」のが一番です。

課題は、ひとつ。「気持ち」です。みんな練習では、すごく良いプレイができています。あとは、試合でも一人一人が「さぼらず」に「戦い続ける気持ち」を持つことが出来れば、素晴らしいチームになれると信じています。

このメンバーで戦えるのも、残り2年になりました。毎週、みんなの「戦い続ける気持ち」を確認していきたいと思います。

「冬もさぼらず、がんばるぞ〜!!」

県大会から見た今年の総括として

麻生RS4年コーチ 室井 秀夫

先日、四年生の県大会が終わりました。3 戦して 2 勝 1 敗と、勝ち越せました。季節の廻りは早いもので、もう年の瀬です。年が明ければ、新年度から体制やルールも変わります。

今期を振り返って見れば、この学年の子供たちは、夏合宿を経て、皆其々に成長したなど私には感じられます。新しくチームに加わった子供たちのスキルも高く、チームに馴染んでいて、他の子供たちも気持ちの面での高揚が、徐々にではあるが芽生えだしてきたのかなと思います。

さて、子供たちにラグビーの試合前に目標を尋ねると決まって返ってくる3つの答え。

“声を出すこと・パスを繋げること・タックルで相手を止めること”まさに、勝利する為には、欠かすことの出来ない大切な要素ばかりが、子供たちの口から発せられます。正しく、術は日頃からの練習(体力・技術向上のための自主トレなど含む)で身に付けるよりほかありません。皆子供たちは、辛い練習も、きつい練習も一生懸命積んで来たからこそ出来てきています。しかし、練習で出来て居るのに試合本番には出来ない…。去る保土ヶ谷での試合でも、おめでとうと言いたところだけど、敢えて辛口なコメントをしてしまうと、ラグビーは、ボールの争奪戦であると同時に陣取り合戦でもある。つまりは、ボール・プレーヤー自身が一歩でも常に前進するぞとの意識を強く持つことだと思います。例えば、広いエリアに展開し、長いパスを華麗に回していくプレーも、密集のまま手渡しパスで小刻みにボールを渡していくプレーも、すべてボールを前進させ、自陣を拡大させるためのもの。また、タックルしたプレーヤーが手放したボールを、素早く拾い上げ、敵陣目がけて突っ走るプレーも、はたまた逆にタックルされても、味方がしっかりフォローしてくれれば(オーバー・ラック)、そのプレーを長く継続させ、攻撃を得点に繋げる可能性も高くなります。それ故、子供たちにはチームの結束力(仲間意識)を深めていって貰いたいと思います。それら思い・意識が強いチームであることこそが、これから5・6年生になってからの勝敗の行方を左右する鍵でもあり、技も覚える(出来る)に止めず、慣れる(会得する)迄身に付けようとする意欲を絶やさず、且つ達成感や楽しみを共感しながら、子供たち、ご父兄の皆様、来年もどうぞ宜しくお願いします。

県大会を振り返って

4年コーチ 上田博朗

4年生選手の皆さん県大会お疲れ様でした。「お疲れさま」というか、もっと試合がしたかったね。1年中県大会でもいらいなはず。試合は「楽しい」「嬉しい」「悔しい」いろんな思いを体験、実感できる場。

でも、これは目標をもって一生懸命やった人だけが体験できる特別な感覚です。

私は恥ずかしながら、みんなの県大会の敗戦後の顔を見て、みんながラグビーを本気で一生懸命やっていたことに初めて気づかされました。(本当にすまん。)

この気持ちで練習をしっかり積んで、待ちに待った「試合」で思いをぶつけることができれば、想像をはるかに超える「嬉しい」気持ちを体験できることと思います。

来年も「元気に」がんばりましょう。今年の2倍「元気」よく頼むよ。

3年生



さきたコーチ しょうたコーチ やべコーチ しみずコーチ やまもとコーチ

そうた しゅんすけ くましょう りょうすけ みぶ たろう たける しょうご あべりょうた いいじまりょうた
あさひ えいと かずとし

けんしょう あきら ゆうすけ はると こうせい けいご つのしょう なつお ゆうや むさし

県大会を終えて

3年チーフコーチ 山本 慎一

3年生にとって初めての県大会を迎えました。

4月に全員で決めたチーム目標“県大会3チーム優勝”に向けて、この1年間厳しい練習によく耐えて頑張ってくれました。

結果は、1チーム優勝で残り2チームは準優勝でした。

目標にはわずかに届きませんでしたが、負けた2試合も本当に僅差でした。大勝あり、逆転勝利ありと全ての試合が印象に残っており、感動を

与えてくれました。対外試合初トライを挙げた子の笑顔は、今でも忘れません。

秋季交流大会で負けたチームに見事に勝利を挙げるなど、この県大会で子供達はすごく成長してくれました。試合を重ねるごとに自信を持ち、堂々と戦う姿が頼もしかったです。

今まで私自身は準優勝しかしたことがなく、初めて優勝という喜びを教えてくれた子供達に感謝しております。本当にありがとう！

又、保護者のみなさまの熱い応援が子供達に大きな勇気を与えてくれたことに改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

子供達、保護者、コーチが一体となり全員で勝利をつかめたことが本当にうれしいです。

この勢いで、更に子供達の成長の為に協力いただければありがたく思います。

引き続きご支援の程宜しく願い申し上げます。

飛躍の三年生

三年生サブコーチ(Cチーム担当) 清水賢一

子供達、ご父母の皆様、そしてコーチの皆様、県大会ご苦労様でした。結果、大会前にたてた目標の三チーム優勝はできませんでしたが、準が2つ付いてしまいましたが、気持ち良く県大会を終了する事ができました。

子供達はスゴイ！三年生としては、レベルの高い練習もこなして、自分等コーチから厳しく鍛えられて決して楽しい練習ではなかったと思います。強豪チームに負けたり、チーム内での戦いの中で勝ちたいと言う気持ちがジワジワと芽生え、それが県大会での「前へ出る」ラグビーにつながり、厳しい試合もあきらめない気持ちを持ち勝利につながったと感じました。(つながっている線はまだ細いけどね)

ご父母の皆様には、大会期間中は自分のチームの試合が無い方々も三年生チームとして沢山の応援、有難うございました。目に見えない影の力からこそが、子供達のテンションの原動力になりますので、これからも宜しくお願いします。

最後にCチーム、優勝おめでとう！（A.Bチームのおかげだぞ！）

県大会を終えて

3年コーチ 矢部孝徳

3年生の諸君、優勝、準優勝おめでとうございます。私は十数年麻生RSでコーをしていますが、3年生の県大会は初経験でした。本当の所、3年生をこんなに鍛えてもいいのか？と、思っていました。もう少し楽しくやればいいんじゃないの？とも思いましたが、子供たちはドンドン上達して行きました。おかげで県大会もこんないい成績で終了しました、本当に良くやったと思います。少し残念なのは、AチームもBチームも横浜負けてしまった事ですね！県大会で、横浜は対麻生に勝利することを目標としていたようです。是非、リベンジしたいですね！来年も楽しいラグビーをしましょう！

県大会を終えて

3年コーチ 清水翔太

時の流れは早いもので、この学年を担当してから1年が経とうとしています。当時に比べ身体が大きくなった子どもも多く、その成長速度には驚かされます。「果たして全員の顔と名前を覚えることができるのか？」と不安に思っていたことも、今では良い思い出です。

前置きはこの程度にしておいて、今年の県大会を振り返ってみたいと思います。3年生は全部で3チームのエントリーで、私は主にAチームの指導を担当していました。結果は準優勝。優勝を視野に入れていただけに非常に悔しい結果となりました。

今回の県大会は、子どもたちにとってはもちろんのこと、私自身にとってもチームを引っ張っていく立場としては初めてのことでした。大きな不安を抱えての指導でしたが、同じAチームを担当する矢部コーチをはじめ、他のコーチや御父兄の方々のご協力のおかげで、何とか形になったと思っております。アフターマッチ・ファンクションでは、相手チームのコーチからお褒めの言葉を頂戴することも多く、子どもたちは本当によく頑張ってくれました。

私の指導は厳しいものだと思います。しかし、その練習に耐え、最後まで私を信頼してついて来てくれた子どもたちには本当に感謝しています。そして、若く未熟な私にチームを預けていただいた矢部コーチ、山本チーフをはじめとする各コーチの方々、御父兄の方々には、改めてお礼を申し上げます。来年の県大会では3チームすべてが優勝できるように指導して参りますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

ます。

県大会でがんばったこと

3年生 野村雄亮

ぼくが県大会でいちばんがんばったことは、あきらめないでいっしょうけんめいプレーしたことです。横浜戦で少しの差で負けた時から『絶対勝つぞ』という気持ちで海老名戦や大和戦を戦いました。先制トライを取られたけど、勝てると思ってみんなであきらめずに最後まで戦って逆転勝利ができてうれしかったです。

藤沢戦では大差で勝って良かったです。準優勝できて良かったです。来年は、絶対優勝します。

県大会

3年生 上田むさし

よこはまにまけてくやしかったです。3しよう1ぱいでおもしろいあいたったのですが、ぼくは楽しかったです。よこすかせんで2本トライできて、すごうれしくてビデオを何回も見てしまいました。でもぼくよりうまい人をみならって来年はけんたいかいでゆうしょうしたいです。

ラグビーの県大会

3年生 阿部 凌大

はじめて県大会をやってCチームがゆうしょうできてうれしかったです。すごうれしかったのは、県大会ではじめてトライを決勝戦で、できたことが、うれしかったです。来年の4年生の時の県大会でもトライしたいです。

はじめての県大会

3年生 野田怜佑

ぼくが県大会で出来たことは、ひくいタックルとオーバーです。できなかったことはフォローです。4年生になったら県大会でもっとかつやくして、チームでゆうしょうしたいです。

はじめての県大会

3年 吉田 隼輔

ぼくは県大会をやって楽しかったです。ぼくは、はじめて県大会に出ました。県大会1回目、グラランドに行った時広くて、見ている人がいっぱいいてきんちょうしました。でも、1しあいが終わって、2しあいめ3しあいめと少しづつなれていきました。3しあい目で横はまに負けてしまいました。だからこれからはれんしゅうして、横はまみたいに強くなりたいです。ぼくは、これまでいろいろなチームとしあいをやってきたけど1番強いのはやっぱり横はまだなと思いました。だから今からは、横はまに勝つことだけを思ってれんしゅうをやりたいです。これからチームがかわるかもしれないけど、県大会の事を思い出して、4年生では、県大会でゆう勝したいです。

準優勝だった県大会

3年生 宮坂瑛人

僕は県大会で成長できたと思います。どこが成長できたかという、タックルがすごく低いけるようになって、強くもいけるようになりました。悪かったところは、気持ちが弱くて、根性がなかったので準優勝という結果になったのかと思います。来年の県大会では気持ちと根性をもっと強くして、優勝したいです。

県大会

3年生 山内 太郎

横浜Cに負けて悔しかったけど、トライを決められて良かった。2位になれて嬉しかった。Bチームのみんなは強かった。また4年生で県大会があったら絶対勝ちたいと思います。

県大会

3年生 日笠壮太

ぼくは、県大会でゆうしょうできないだろうなと思ったけど、ゆうしょうできてうれしかったです。とくに田園とのし合でトライをきめれたのがうれしかったです。来年の県大会でもゆうしょうしたいです。

はじめての県大会

3年 小坂海歩

はじめての県大会でできた事と出来なかったことを書きたいと思います。できたのはタックルとオーバーで、できなかった事はトライです。来年の県大会までには、もっとタックルを強くして、オーバーをもっとおせるようになりたいです。それと、わたしは自分にボールがきた時に自信がなく、何も判断しないで、投げってしまうので、それをなおしたいです。来年は絶対にトライをきめたいと思います。そして、次こそ全勝優勝したいです。

はじめての県大会

3年生 米元 悠翔

ぼくは、3年生になってはじめて県大会をやりました。県大会の目標はオーバーをすることでしたが、あまりできませんでした。けれどトライやタックルがいっぱいできたのでよかったです。来年はゆうしょうできるようにがんばります！

はじめての県大会

3年生 齋川 夏央

チームの目ひょうはぜっ対ゆう勝。だから、みんなでパスやタックルの練習を一生けん命した。けっかは3勝1負のじゅんゆう勝だった。くやくしてざんねんだったけど、3つ勝ててちょっと良かった。僕はトライを1本は取りたかったけど取れなかったの、すござんねんだった。ディフェンスではタックルは決められなかったけど、相手を止められた。ポジションでフォワードとウイングの両方が出来て良かったけど、ウイングの方が楽しい。

はじめての県大会

3年 横尾 瑛

はじめての県大会みんなでがんばったけど優勝できなかったの、来年はもっとたくさん練習して絶対優勝したいです。

県大会のこと

3年 萬場康生

ぼくが、県大会でがんばった事は、できるだけ相手の陣地でプレーをすること で、だいたいできたので、よかったです。あと声だしが試合の前半できなくて、後半できたので前半から声を出すようにがんばります。あと、できなかったことは、キックがほかのチームよりうまくできなかったの、キックを練習してうまくできるようにします。来年、4年生になったら、県大会すべて優勝になるようにがんばります。

Aチームの県大会

3年生 熊谷 祥

県大会ははじめてでした。さいしょの試合はすごくドキドキしました。なぜかという、Aチームは3年生の中で一番んさいしょだったからです。ノッコンやスローフォワードもあったけど、目ひょうだったステップはできました。タックルもできた。でも、トライは2本しかできなかった。もっとあばれたかったです。じゅんゆうしょうは、うれしかったけど、よこはまに負けてくやしかった。よこはまは、パスをつないでフォローがよくできていました。よこはまのながれを止められませんでした。来年は、あばれまくってもっとトライをとり、ゆうしょうしたいです。

県大会を終えて

3年生 津国 千智

僕が一番に目標にしていたのは、オーバーとあばれるです。理由はフォワードだからです。県大会が進むうちに、目標がだんだんとたっせいでできてきました。あと、まだ少しとっしんが弱いから、もっとスピードをつけてとっしんを強くしていきたいです。オーバーも少し弱いから、あいてをつきとばすようにしてターンオーバーできるようにしたいです。今年の県大会は準優勝だったから、来年の県大会は優勝できるようにがんばっていく。

次はかならず

3年生 太田佳吾

ぼくたちは、県大会で横浜Bに負けたため、じゅんゆう勝でした。その時は、すごくやさしかったです。だから、次の県大会でぜったいに勝ちたいです。

はじめての県大会

3年生 奥川朝陽

ぼくが、県大会で一番心にのこったのは、最後の試合です。理由は、勝ったらゆうしょうだったし、自分で1トライ決められたからです。でも一番きんちょうしたのは、最初の試合です。山本コーチが、横浜は強いよ、と言っていたからです。相手は横浜でした。自分はどうしていいかわからなかったし、声も出なかったけど、チームの皆ががんばってくれて、かつことができました。ぼくはラグビーをはじめて良かったと思います。予想よりも百倍楽しかったからです。もっと強くなりたいです。

県大会の思い出

3年 本田 昂大

ぼくは、大きな大会で優勝した事が無いので、すごくうれしかったです。ぼくは、ハーフで試合でちょっと変なパスもしてしまいましたが、みんなが、上手にボールをとってくれました。試合で、ボールの取り合いになった時でもぼくは、横からすぐに抜けて、ボールを取り行きました。ぼくが、出したボールをみんなが、がんばってゴールラインまで、持ち込んでトライをしてくれたので、すごくうれしかったです。

はじめての県大会

3年生 安藤 雄也

はじめての県大会に出場して、横浜ラグビースクールとのしあいだけ負けてしまったため、優勝できませんでした。とてもやさしかったです。もっと練習して、タックルやトライを決められるようにして、4年生の大会では優勝できる様子ががんばりたいと思います。

県大会を終えて

3年生 野田怜佑の母 野田朋見

三年生のみんな、県大会素晴らしい成績でしたね。おめでとうございます。さて、Bチームの怜佑は合宿で成長したものの、みんなの成長スピードには全然ついて行けずで……。そんな中で迎えた県大会。初戦で大勝し、勢いがついたものの、横浜との試合でのくやしい負け。怜佑はみんな程くやしいとは思っていないようよう見えていました。しかし、次の試合では果敢にタックル、オーバー！本当に一試合、一試合成長してくれました。いつもハラハラ、ドキドキのBチーム、感動をありがとう！四年生では更なる活躍を期待しています。

県大会を終えて

3年生 日笠壮太の母

ようやく皆と並んで練習できるようになり、どれくらい試合で活かせるのか心配でしたが、コーチにも褒めていただけるほどの頑張りで全勝優勝もでき、初めての県大会、とてもいいスタートを切れました。おめでとう！！でも、優勝できたことに浮かれず、これからも成長のスピードを緩めずに頑張ってもらいます。C

チームの要、東野しんいちろうくんに紹介してもらって入校させていただいたのですが、大変残念ながら退校され、代わりにうちが残ってしまったのがとても複雑なところです…代わりにはなれなくても、しんちゃんの分も頑張るぞ！の意気込みで、これから臨んでいってくれることを期待しています。これからもご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

初めての県大会を終えて

3年生 米元 悠翔の父

まずは3年生のみんな、県大会お疲れ様！結果も素晴らしかったけどそれ以上に必死で頑張っている姿をたくさん観られた事が嬉しかったよ。コーチの皆様、県大会までのご指導ありがとうございました。このチームでの残りの期間も少ないですが、最後まで宜しくお願い致します。県大会を通して感じた事は試合を観るのがこんなにも緊張するものなのか！という事とこんなにも観ていて熱くなれるのか！という事でした。自分が試合やってる方が楽だなと思うぐらい。なぜそこまで試合にのめり込む事が出来たかという、それは子供たちが公式戦というのを肌で感じ取って試合前から緊張感のある良い顔をしていたり、いつも以上に相手に食らいついてタックルしたり本当に真剣な姿を見せてくれたからだと思います。Bチームにおいては、今まで勝てなかった相手に勝ったり、最終戦では3本トライを取られてからの逆転など素晴らしい成長をしたと思います。この県大会でチームで戦う、みんなで勝つんだって事を少しは感じてくれたのではないかと思いますと同時に、今後も仲間がたくさんいるラグビーの素晴らしさを少しずつも感じていってくれたらなと思います。

頑張った県大会

3年萬場康生の父母 則夫・恵子

2年生まで友達と楽しくやっていたラグビーも、3年生になって緊張、プレッシャーの連続だったのかもしれませんが。雨の中での練習、初めての夏合宿、コーチからのゲキ！そして、初めての県大会。本人は毎試合、とても緊張している様子でしたが、反面、「絶対に勝つ！」という気持ちも強く感じられました。そして、何より大会を楽しみ、試合まで期間があいた時は、早く試合がしたくてうずうずしていました。コーチに促されてではありましたが、勝つためにどうしたらよいか、子供たちだけで話し合う姿も見られ、成長を感じさせられました。結果、優勝できたことは、とてもよい経験と自信になったことと思います。親も毎回、エキサイトし、子供以上に緊張した県大会でした。これからのチームの成長が楽しみです。コーチの皆様、今年一年ありがとうございました。来年も ビシバシ！ご指導のほどよろしくお願いいたします。

千(かず)の成長

3年生 津国 千智 父 秀一

今年とはとにかく大きくなったな～と思います。体もそうですが、プレーもです。真っ直ぐに突進できている姿は、中々迫力があって親としても思わず、「相手の子、痛そ～」と思っちゃいます。これで、本人のいうスピードがつけば、かなり厄介なフォワードになれるんじゃないかとバカ親は勝手に思っています。その為にも、県大会が始まった頃から、家にある米俵(5kg)を持ってスクワットを始めたことには驚きでした。最初はやらせていたのですが、いつの間にか自分から続けてやるようになっていました。自分の中でも少しの自信が付いてきてのではないかと思います。今ではラグビーが大好きになったようで、家でもラグビーボール持って遊ぶようになりました。もっともっと好きになって、自信を持ってプレーできるようになって欲しいと思っています。コーチの皆様、今後も宜しくお願いします。

初めての県大会を終えて

3年生 太田佳吾の父 昌彦

3年生コーチ・ご父兄・選手の皆さん、県大会、おつかれさまでした。そして、Cチームの優勝を含め、全体で9勝2敗の好成績、よかったですね。初めての県大会ということで、これまでの交流戦等とは違う緊張感があったようですが、選手たちは、ものの見事にやってくれましたね。それどころか、1試合ごとに子供た

ち個人の力、各チームの力、3年チーム全体の力が成長しているなあと感じたのは私だけでしょうか。これが一般的に言われている「ゴールデンエイジ(技術習得に最も適した年代)」を迎えた子供たちの潜在的な能力なのですね。これから6年生にかけて、今やるべきことをきちんとやれば、恐らく私の想像以上のスピードでチームは成長していくことでしょう。みんなの成長する姿を見るのが今から楽しみです。もっとも子供たちの秘めた力を信じています！

2年生



(2列目左から): 坂脇優来・京屋光琉・萩原起・都留茉奈実・中島知己・小高佑・海老原銀次・原田太陽・村松京弥・齋藤裕気

(1列目左から): 宮澤樹・濱田昂輝・竹川正剛・河瀬孔太郎・都留光平・神下弘太郎・無田快

「ミルキー交流戦を終えて」 2年チーフコーチ 濱田 正行

11/23日のミルキー交流戦、2年生は3チームでエントリーです。

2年生は春頃まで負けが先行していましたがリコーフェスタを境に良い試合が出来るようになり、ミルキー戦の前には勝ち星を多く取れるようになりました。

ミルキー戦は2年生として1年間頑張って練習してきた集大成と位置付け、張り切って試合に挑みました。…が結果は0勝3敗と残念な結果になりました。

ミルキー戦を前にみんなとの約束。

- 1、セットプレーでは相手チームより早く自分の位置に付く
- 2、守りではみんなが一緒に前に出る
- 3、ボールを持ったらずがらず前に出る。相手につかまった時は振り向いて味方に繋ぐ。

みんな良く出来ていたと思います。

但し、最近までの試合では通用していた事が今回の相手には通用しませんでした。子供達はあれ？いつもなら抜けるのに？味方に回せるのに？と思ったと思います。

横浜戦ではマイボールで持ち込んでも味方に繋げず、モールパイルアップしてしまう事が多くありました。

横須賀戦では低いタックルで度々倒されるシーンがあり、味方のフォローも遅れた事もあり、相手チームにボールを渡してしまいました。

全体的に相手チームの方が一歩進んでいたという印象です。

しかし、みんな最後まで頑張ってプレーしました。試合後にみんなが言った悔しい気持ちはコーチも同じなので忘れずに頑張ってください！

他チームと比べても個々の実力に差はありません。勝敗についてはコーチ陣の指導不足もあります。

その中でも良い所がたくさんありました。

今までタックルに入れなかった子供達が徐々に入れるようになってきました。

何度か綺麗なオーバーが見られました。

トップスピードでセンターがボールを受けられるようになりました。

これからは3年生(7人制)の練習がはじまります。

勝敗も大事ですがまずはラグビーを好きになってもらいたいです。

これからも頑張ろう！2年生！

「本年度のゲームを終えて」

2年生サブコーチ 齋川 宏

ここ数試合残念な結果となっています。これは、個々は絶対的には成長しているにも関わらず、相対的な強さを発揮することができなかった事に因ると思っています。一つ一つのプレイをチームとして習得していくことで間違いなく相対的にも強くなります。

これは春のラグーマンに記した一節です。

今年最後のミルクキー戦も残念な結果となりましたが、子供たちはみんな本当に成長しています。徐々にであつてもチームとして成熟し、夏から秋に亘つての交流戦も「成果」は出ていました。今まで出来なかったプレイが試合で出来た時の、その子の成長ぶりには目を見張ります。対外試合で一チームがもの見事に決めたサインプレイを、他の二チームも負けじとチャレンジする姿勢は頼もしくありました。勿論「まだまだ」な事は多々あります(内においても他スクールと較べても)。練習を重ね、経験を積む事で強く上手なっています。

あ～、それなのに、それなのに。

11月23日のミルクキー戦は今年の「集大成」と位置付けたにも拘らず結果を出せなかった事は、来年に向けてのコーチングの大きな課題と思っています。

「ミルクキーを振り返って」

2年サブチーフ 野田 卓人

今年の試合を振り返ってみると、子供たちの歯車が噛み合っていたときは、タックラーを振り切ったり、モールからの二次、三次攻撃ができる等、非常に目を見張るレベルで試合が出来ていました。

春先にはボールを持って走っているときに、相手に捕まるとわかっていても突っ走って行くことしか出来なかったのが、フォローしてボールをつないでトライに結びつけたり、目の前にボールがあると簡単に奪われていたのが、絶妙のオーバーでマイボールにすることが出来るようになり成長を実感しています。

それでも思うように自分たちのプレイが出来ず、途中で子供たちが泣き出す試合もありました。

「試合に勝てたのは子供たちの努力の結果、試合に負けたのはコーチの責任」この言葉を胸に、子供たちが試合の度に、ご父兄に笑顔で試合結果を報告できるよう勝てるチームを作って行きたいと思います。

「ミルクキー大会を終えて ～ 続けることの素晴らしさ ～ 」

2年コーチ 原田 泰一(2年 原田太陽の父)

正剛、弘太郎、裕気、太陽、起、樹、光琉、孔太郎、銀次、京弥、昂輝、光平、茉奈実、知己、快、佑、優来、17人のちびっこラグーマン・ウーマン。

残念ながら、さよならをしなくてはならなかった陽介、勇輝。

皆にもらった忘れられないたくさんの思い出をありがとう！

2年生最後の試合は負けてしまったけど、皆は確かに一歩ずつ前に進んでいました。

初めてのトライ、初めてのタックル、出来ないことが出来るようになる。人生で一番素晴らしい体験を、これ

からもラグビーを続けることで感じて下さい。

特に仲間を信じ、ボールをつないでトライまで持っていく意識が皆に芽生え始めたのは本当にすごい成長です。来年からは7人制、もっともっと皆で協力する場面が増えていきます。チームが強くなるには皆で競争して、頑張っ、練習を続けていくことです。

これからのリトルラグーマンが楽しみです！

「秋の公式戦を終えて」

2年コーチ 京屋 宜正 (2年 京屋光琉の父)

今年の2年生は17名の子供たちが在籍しており、アタックディフェンス形式も含めいろいろな種類の練習ができるなど、練習環境に恵まれました。また、チームを3つ編成し、それぞれのチーム内でキャプテンやポジションを決めることにより、各ポジションの役割の理解度や、ラグビーをプレーする時の自主性が高まったと思います。夏合宿にも多くの人数が合流させてもらい、貴重な経験を積むことができました。

練習試合ではそれらの練習の成果が発揮できていない場面もあり、キックオフから相手を止められずにトライされることや、簡単にパスをつなげられてトライされることも多々ありました。しかし、モールからのパスでボールを繋いだり、ラックからのオーバーでボールをキープしてトライを取ったり、随所に来季につながる良いプレーが見られたと思います。

3年生からは、1チームの人数も増え、キック等のルールも追加され、試合中はサポートコーチが付きません。自分で状況を判断し、考え、チーム内の仲間同士でコミュニケーションを取り合っプレーすることが重要になるため、個々の技術や体力はもちろんですが、集中力を切らさずプレーすることや声を掛け合っ指示したり励ましあったりすることが必要になります。今まで通りのプレーができずに、もどかしい思いをすることもあっと思っますが、頑張ってもらったいです。

私も親コーチとして指導するのは今年で終わりなので、少々寂しい気もしますが、これからは親の一人として応援します。

また、子供たちには今後もラグビーを楽しみながら、怪我無く、仲よく、一体感を持ったチームに成長して欲しいと思っます。

「ミルキー大会感想」

2年 海老原 銀次

ミルキーでぎゃくてんできそうだったけどじかんがなくてぎゃくてんできなかつた。

らいねんのけんたいかいではぼろがちをしたいです。

れんしゅうをがんばっはしりもはやくなるようになっばります。

「くやしなかつたミルキー大会」

2年 神下 弘太郎

今日、ミルキー大会をしました。最初は勝つ気満々で試合に挑みましたが、田園と1試合目にぶつなつて、前半すぐトライされて、すぐあせってしまっました。後半は、ダメかと思っただけど、僕がトライをした後、自分たちの陣地でしか出来なかつたのが、相手の陣地にも入れるようになっりました。たつきもトライをして、巻き返せるかという希望が出てきました。だけどまた差を広げられてしまって、“8-2”で負けてしまっました。当たり負けはしていなかつたけどコーチは言ってしまっましたが、パスが上手く回せなかつたり、あせってプレイが遅れてしまって、ボロ負けしてしまっただと思っます。

後の2試合も負けてしまって、すぐくやしなかつたけど、これを来年の3年生の県大会で優勝できるように、生かしてきたいと思っます。

「2年生でがんばったこと」

2年 河瀬 孔太郎

さいごのしあいはまけてしまったけれど、秋からがんばって
声を出せてこれたのはよかったと思う。
さいきん、しあいが少したのしくなってきた！

「試合が終わって」

2年 小高 佑

そんなにタックルはできなかったけど、3年生になったらもっと、うでをあげたいです。もっとトライがしたい。
かちつづけたいです。

「頑張るぞ！」

2ねん さいとう ゆうき

23にちのしあいにまけてくやしかったです。
でもタックルをできてうれしかったです。
れんしゅうがんばります。でも400メートルそうはきらいです。

「止めることができた！」

2年生 坂脇 優来

11月23日にえびなでし合をしました。2年生のメンバーです。さい後のし合でした。
その時わたしは、あい手のことをグッと力いっぱいつかまえてタックルすることができました。
たおすことはできなかったけれど、あい手のことを止めることができて、うれしかったです。
3年生になったら、あい手のことをたおせるようになりたいです。そのためにわたしは、もっとひくいしせいでタックルできるようにれんしゅうをがんばろうと思います。

「くやしかった」

2年 竹川 正剛

ぼくの目標はタックルすることでした。でも、勇気がなくて姿勢が高くてつかまえられませんでした。
ぼくたちは、ほかのチームよりも100倍ぜったいにれんしゅうをしなきゃ勝てないんだ。
でも、だいすき、ラグビー。

「くやしかった」

2年 都留 光平

ぼくは2年さいごのしあいはどうしても勝ちたいとおもっていました。
でもしあいのとちゅうで足をいたくしてグラウンドから出てしまいました。
とてもくやしかったです。もっとオーバーをしたかったです。
つぎはさいごまでやりきり、なかまとみんなでかちたいです。

「タックルがうまくなった」

2年 都留 茉奈実

秋にのつだ公園でグリーンとしあいをしました。
それまではタックルする時にこわくておもいきりできなかったけれど、そのしあいでは、どうしてもかちたくてむちゅうでタックルしたらあいてのふとももをうまくつかめて、たおすことができました。
おじいちゃんやおばあちゃんにも見てほしいタックルでした。

「試合に負けちゃった」

2年生 中島 知己

今日は、海老名で2年生最後の試合でした。ぼくは、「ぜったい勝つぞ。」と思って試合に出ました。相手

は、横浜です。横浜は、ボールをちゃんとつなげていたし、足はおそいけれど、タックルは強かったです。ぼくは、仲間に「すぐならんで。」とか「一緒に出るよ。」と声をかけました。

これからは、相手より早いちについて、集中してプレーをしたいです。ぼくは、タックルやトライは出来なかったけど、来年はそれをいっぱいやりたいです。試合は負けただけ、来年も、さ来年も勝ちたいです。

「新しいチームでのミルクィ大会」

2年生 萩原 起

ぼくはチームがかわってから、ポジションが、センターからハーフになってそのチームが5人せいのさいごのチームでした。さい後のしあいでは、まげちゃったけどトライもできたし、オーバーもできたからよかったなと思いました。

つぎからは、けん大会なので、こんどはけん大会でゆうしょうしたいです。

「しあいを終えて」

2年生 濱田 こうき

この前の大和とのしあいはかてました。でも、今日のしあいは、強てきがいるかもしれないと思いました。今日は、ミルクィさいごのしあいで、コーチやお父さん、お母さんにかんしゃの気持ちをこめて、まず、全力でたたかうこと、今まで学んだことをすべて出しきること、トライをとられてもあきらめないでたたかうことをきめました。

でも、しあいでは、タックルしようとしても、相手の足が早くておいつけなかったので、できませんでした。気がついたら、ハーフタイムまでで7点もとられていました。

後半では、ぼくはなきそうになっていました。

10点もとられて、ラストワンプレイで、自分たちのボールだったのに、またあいてにとられて、11点になってしまいました。

その時、ぼくはとてもくやしかったです。

3年になったら、また同じあいてとたたかうことになるかもしれないので、自分たちの弱点をなくしたいと思います。

まず、フェイントではぬかれないうこと。次にタックルをよけること。さいごに、はやく、全力で走ることをいしきたいです。

来年は、ぜったい県大会でかちたいと思います。

「3年はトライをいっぱいってやる」

2年 原田 太陽

ぼくは2年をふりかえって、1年とくらべてタックルが多くて、あまりトライができなくてくやしだったので、3年からはいいうごきをしてトライをとりたいたいです

センターになりたい

「東村山と町田のチームとたたかった」

2年 宮澤 樹

11月6日に、こうりゆうたい会をしました。はじめにたたかったのは、東村山とこたいらのごうどうチームです。

トライもたくさんできました。

つぎは町田のチームです。学校のともだちが町田にいたので、たのしくできました。

「秋シーズンを終えて」

2年小高佑の父 聡

最期のミルクィ交流戦は結果は残念な結果でしたが、特定の子どもだけでボールを回すのではなく、全員でつなぐ、このチームらしいラグビーはできていたと思います。佑については、当初いつまで続けられるか、と思いつながら入校したのですが、最近では楽しくなってきたようで、特に試合は学校よりも面白いとい

うまになってきました。秋の試合をとおして、少しハマッてきたようで、うれしい限りです。練習態度など、まだまだな部分も多いので、楽しさのなかに厳しさありで、何事も本気で取り組む姿勢を身に着けられればと思います。今後ともよろしく願います。

「がんばれ！2年生！」

2年 竹川正剛の母 明美

コーチ、ご父兄のみなさま、一年間お世話になりありがとうございました。
今年が最終となるパパコーチのみなさまには、正剛が小さい頃から優しくご指導下さり心から感謝しております。
今年のミルキー大会、大敗しました。
びっくりするくらい他のチームは成長していました。この結果は親の姿勢の反映だと反省しました。
まだまだ課題の多い学年ですが、コーチのみなさまこれからもご指導よろしく願います。

「試合を通して」

2年 都留茉奈実・光平の母 純子

毎回の練習で、子どもたちは汗だらけになりながらがんばっています。
一方で試合となると、勝てるとは限らない現実があります。
勝ったときはよいのですが、負けたときは何が足りないのかなと本気で考えさせられます。
もちろん、他のチームもどんどん伸びているのですよね。
大人以上に勝ちにこだわる子どもたちにとって、負けは相当悔しいはず。
その気持ちを次へのやる気に繋げてほしいと強く願っています。
いつもご指導いただいているコーチの皆様、一年間ありがとうございました。

「ミルキー大会を終えて」

2年中島知己の母 広美

試合の結果は残念でしたが、悔しい思いをした気持ちを忘れることなく、来年に向けて飛躍してほしいと思います。

「感動」

2年 萩原起の母 信子

子ども達の試合では、勝っても負けても毎回感動してばかりです。特に今回、仲間を意識した、つなぐプレーができるようになったことが嬉しかったです。ついこの前まで密着すれば仲間どうしてボールをとりあったりもしばしば。それが最近では、「自分が」ではなく「チームが」勝ちたいという思いをもっていると感じます。コーチの皆様のご指導のおかげです。これからも七人制になって、ますますラグビーらしく、プレーも心も成長してくだらうわが子達が楽しみです。これからもどうぞよろしく願います。

「2年生ミルキー大会を終えて」

2年 原田太陽の母 和佳子

二年生後半の試合では、個々が自分の役割を意識し、ボールをつないでトライを取るプレーが見られるようになり、この一年での成長を感じています。
一方で、体格の大きい子ぞろいのチームに向う時など急に弱気になる場所があるので、今後は自分に自信を持ち気持ちで負けない強さを身につけてほしいです。
親としては、線の細い息子を何とか太らせるよう、食事を工夫するのが課題です。

1年生
「ミルキー大会を振り返って」



「ミルキー大会を終えて」

1年生チーフコーチ 伊藤 信一

早いものでスクールの活動としては今年も残すところ1ヶ月程となりました。春から比べてメンバーの人数も倍以上の15名になった事もあり、複数チームエントリーで臨んだこの秋の戦績は合計17戦して9勝8敗、(内訳は交流戦で8勝4敗、練習試合4敗、前座試合1勝)と舞台が大きくなるほどにパワーを発揮する子供達、そして1試合戦うごとに成長していく彼らをみていると毎週の練習よりも試合を通じて経験し得ていくものも大きいように感じます。またこうしてメンバーが増えて複数チームを組むことが出来、対戦する相手チームがいる事に感謝感謝です。さあ、年が明けると新2年生としての活動になります。これからも成長し続けていく子供達に期待です。ご父兄の皆さま、今後もより一層の「三位一体」のご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

「ミルキー大会を振り返り」

1年 サブチーフコーチ 野村 文雄

一年生リトルラグー諸君、ミルキー大会お疲れ様でした。保護者の皆様、朝早くからの送迎など、ご協力有難うございました。この秋は、仕事や出張の関係で、私は海老名(11/23)のミルキー交流戦だけしか見る事ができませんでした。誠に申し訳ございませんでした。

その分、海老名での一日は、私は集中して皆のプレイを見ました。この一年間で、足が速くなった子、タックルが上手になった子、こぼれ玉のキャッチが上手になった子、皆、それぞれで成長していることを確信しました。全員でボールをつないで得点に結びついた時、試合終了の勝利の瞬間、とても嬉しそうな表情でしたね。

これが、チームスポーツの素晴らしいところです。自信を持ってください。皆が主役です。
で、ひとつだけお願いします。

試合中も練習中も、大きな声を出しましょう。

特に試合中は、大人(お父さんお母さんまたはコーチ)の声しか聞こえないときがあります。

大きな声を出した方が、パスももらえるし、元気が出るし、ゲームに集中できるし、楽しくなります。

だまされたと思って、とにかく大声を出しまくって練習に試合に取り組んで下さい。

明るく楽しく、且つ真剣に。

必ず！結果はついてきます。

これからも頑張れ！ 応援しています。

以上。

「これからがんばりたいこと」

1年 菅田 光真

400mそうが2ふんをきれなかったの、もっとはやくはしりたいです。タックルをこれからひくくて、じぶんのほうにあしをひっぱって、ころばせてボールをなかにわたすのをがんばっていきたいです。

「ラグビーチーム」

1年コーチ 菅田 光平

小学校に入学して劇的な環境の変化が起こったであろう一年生。そんな中、みんな変わらず楽しそうに毎週練習に参加してくれていました。(おそらくそうだと思います)

日がたつごとにどんどん仲間は増えていき、今や15名のチームとなりました。将来の夢は？と聞かれて「ラグビー選手！」と答えるかわいい子どもたちです。(おそらくそうだと・・・)

つらい練習や痛い練習も一所懸命に取り組むみんなはすごい！みんなはもう立派なラグビー選手です！これからもどンドン頑張る「強いラグビー選手」を目指してください！

また、1年生のみんなにはたくさんの仲間がいます。これからはみんなで「ラグビーチーム」を作ってください。少しでもお手伝いができればと思います。

1年間ありがとうございました！

「タックル」

1年 乙地 優二郎

幼稚園の頃は、あまりタックルができなかったけれど、1年生のミルキー戦ではタックルが出来るようになってうれしかったです。これからもっとタックルもして、相手を振り払えるようになりたいです。練習頑張ります。

「成長」

1年 乙地 優二郎 母

1年生も半分以上過ぎ、お友達が増えたり仲間意識が出来てきたりしたようで、以前よりも楽しそうに練習や試合をしている姿をともうれしく思います。

まだまだチームプレーとしての動きや、ラグビーのルールはわかっていないなあと思いますが・・・(2年以上経つのに・・・)

これからはルールを理解し、一人では勝てない事、みんなが支えてくれている事を感じ、ともに練習するなかで信頼関係を築いていけるような人間になってほしいなど願います。

いつもわがままな息子を辛抱強く指導して下さるコーチの方々、親子共に支えて頂いているチームメイトとその保護者の皆様に、多くの感謝でいっぱいです。これからもよろしくお願いします。

「ラグビーのしあい」

1ねんせい くすもと じゅん

●しあいにでておもったこと

あいては つよかったけど、みんなと ぼくが きょうりよくて、あいてを いっぱい たおせて よかった。

●できたこと

しあいにしゅうちゅう できるようになった。
タックルが いっぱい できるようになった。

●できなかったこと

トライは、そんなに たくさんでできなかった。
こえを いっぱい だすことが でできなかった。

●これから がんばること

トライを いっぱいする。
もっと、なかまと こえをかけあう。

●そのために がんばること

「れんしゅうじあい」のときに あいてを よけて すすむ れんしゅうをする。
つかまったら、「1ぽ」でも まえに でて、はやく なかまに わたす。
れんしゅうの ときに ふざけずに こえを だす。

●ラグビーで 1ばん たのしいこと

「うづき かいと」くんにあえること。

「成長」

1年 楠元 隼 父

2007年4月22日、初めて日大稲城グラウンドへ行きました。2歳3か月だった隼には、グラウンドがどんなに広く見えたことでしょうか？

ちょっと練習に参加しては、飽きて逃げ出し、コーチに連れ戻され、また、逃げるの繰り返しでした。そんな隼でしたが、練習の列に並んでいると、まわりのお兄さんたち(といっても幼稚園児ですが)が、手を引いてくれました。

初めて、ユニフォームを着たのが、翌年の6月、ブカブカでした。しかし、ユニフォーム効果は絶大で、この日は整理体操まで集中できました。

この頃から、少しずつですが、練習に参加できるようになり、日曜日の朝、グズリ気味の日もありましたが、何とか4年半、続けることができています。

気持ちのやさしい、隼。タックルをするにも、相手のことを気遣って、強く当たることができず、また、ボールを持って、自分でトライを狙うことを遠慮してしまいます。

素直な、隼。ボールをもらうと、コーチの言葉どおり、真っ直ぐ前に進み、すぐに相手に捕まってしまう。でも、本当は、スルスルッとトライを狙いたい思いもあるようです。

負けず嫌いの、隼。でも、本当は負けず嫌いで、上手にできずに試合中に泣き出してしまったり、トライができないことを悔しがったり。

最近、ようやく、試合の間、集中できるようになり、また、少しずつ、欲が出てきたようです。タックルには、少し自信がついてきたようで、練習や試合の後に、うまくできたことを目を輝かせて説明してくれます。モールの時にも、以前は、後ろから押すだけでしたが、自分でボールを奪おうという動きを見せるようになってきました。密かにトライを狙っているようです。

練習や試合の後、悔しそう顔、後悔している顔、充実した顔、満足した顔、成長するにしたがい、色々な表情を見せてくれるようになってきました。

このような、成長を間近で感じられるのも、毎週、麻生ラグビースクールに通わせていただいているおかげです。

これから先も、ラグビーを通して、色々なことを体験し、学んでほしいと思います。

コーチのみなさま、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

がんばれ！リトルラグメン！

写真は、隼の初ユニフォーム姿です。



「はじめてのミルクーたいかい」

一年 佐藤 祐太郎

がんばれたことは、トライがとられそうなとき、さいごまでおいかけることができました。
これからは、すぐタックルができるようになりたいです。
みんなにもっとこえをかけるようになりたいです。

「えびなのしあい」

1年生 土方 将嗣

「えびなのしあいでは、たつくるがうまくできませんでした。つぎからもっと力をいれたいです」

「がんばったこと」

1年 卯月 快杜

まえは、しあいでタックルができなかったけど、ことしは、タックルが1しあいで2かいできるようになった。

「祝！初タックル??」

1年 卯月 快杜 母 有加

快杜が麻生ラグビースクールに入って1年余りが過ぎました。本人は、「試合でタックルができるようになった」と言っています。まだまだ「タックル」とは言えない感じですが、でも「タックルに行こうとしている」という気持ちが伝わってきて、ちょっと感動しています。1年前を思うと、快杜の口から「タックル」と言う言葉が出てくるなんて…。去年は、快杜に「ラグビーの練習で何が好き？」と聞くと、「400メートル走と体操」答えしていました。ラグビーつばい練習がとても苦手で、特に試合形式の練習や、試合本番は「できればやりたくないな…」というオーラが出ていました。今年目標を聞いたときも「400メートル走が早くなりたい」と言っていた子が、保育園の卒園式で「大きくなったらラグビー選手になります。」といったときには、正直驚きました。小学校に入り、七夕の短冊にも、夏やすみの絵日記にもラグビーのことを書いて、普段の態度には出さないけど、ラグビーが好きなのだということがわかります。このごろは「試合の後半に出た」とか「麻生が勝った」と教えてくれます。『試合に出たい』とか『勝ちたい』という気持ちも芽生えてきているようです。テレビで一緒にワールドカップを見たときは、「今のは“ノックオン”だよ」などと解説もしてくれました。実際に試合でタックルができた、トライができるようになるにはまだまだ時間がかかりそうですが、気持ちだけは、着実に『ラガーマン』になりつつあるわが子です。
本当に「祝！初タックル」となる日を楽しみに、これからも応援したいと思います。

「たのしかったこと」

一年 たかはし りょうせい

ミルクーのしあいが たのしかったです。
よこはまのあしがはやいひとをタックルできたのがうれしかったです。
ミルクーフェスタがたのしかったです。
とくにパスを三回わたしてすわるゲームがたのしかったです。

1年生 畑佐 健太郎

「上手にタックルできるようになったよ」

「ボールをひろってトライ」

1年生 石野 創太郎

ラグビーのしあいで、あさおBでした。あさおAはまけたけど、あさおBは9ほんたい3ほんでかちました。
そのしあいでおれは、こぼれたボールをひろえました。トライもしました。

「ことしのミルクィー戦」

1年生 齋川 春朗

トライやタックルができたから、しあいはたのしかった。こんどのしあいもがんばりたいです。

「ラグビーノシアイ」

1年生 奥川 煌星

あきからラグビーをはじめました。ラグビーはタックルがすごくたのしいです。200かいトライしたいです。きつかったのは400メートルと5ふんかんそう、だけど、足がはやくなるからいっしょうけいめいやります。

幼稚園



頼もしい麻生の仲間たち

幼稚園チーフコーチ 河合 淳一

今年も慌ただしく、師走を迎えました。

今年の幼稚園クラスは、年長8名、年中5名、年少1名、未就学生1名です(2011年12月1日現在)。

今秋の幼稚園クラスの対外試合は、9月11日の藤沢RS交流戦、9月19日の日大稲城G交流試合、10月22日トップイースト前座試合、11月6日の大和キンダーカップ、11月23日の海老名のミルクィー交流試合、です。

結果は年長6勝3敗、年中年少8勝1敗でした。

2011年度の幼稚園クラスチーフコーチを任せられ、5月の段階で私はこのリトルラグーマンで、「子ども達と1年間楽しくラグビーをすること」、「新しい仲間を増やすこと」、を今年の抱負にしました。

まず1つ目、楽しくラグビーをすることについては、合格点を挙げても良いと思います。

特に年長の子供達ですが、試合で相手に勝つ事により、自らの役割を果たし、それが勝利に繋がる事の喜びを皆が少しずつ感じ始めているように思いました。

年中の子供達も、この秋口の試合で大きく成長したと思います。

特に、11月23日の海老名での交流試合は、年長(vs 横須賀 B、vs 横浜 C)、年中(vs 鎌倉 A)共に、ピッチに立った全員がトライを取るため仲間同士でボールを繋ぎ合い、前に出続ける事でつかんだ勝利だと思います。

2つ目の、新しい仲間を増やすことは、当初に計画立てた事を具体的に実行に移すことができませんでした。スクール外に対しての告知、スクール内の弟妹に対しての告知、双方に対して中途半端に終わってしまいました。早急に取り組むべき事項ですので、来期は積極的に動いていきたいと思います。

幼稚園生は、様々な事に関心が出てきて、なんでも体験しないと気が済まない。

教えた事の吸収は早いですが、なにせ集中力がありません。

その好奇心旺盛な子ども達同士が、この麻生ラグビースクールで、ラグビーを通して共に過ごし、共に遊び、自分が苦しい時に気づくと隣にいて手助けをしてくれる仲間同士であって欲しいと思います。

本人が、ラグビーを上手に、好きになってくれれば嬉しいですが、ラグビーを通して人間一人ではできないたくさんの素晴らしい事を友達、ときにはライバルと一緒に乗り越えていく。お互い依存ではなく、良い意味での競争相手になって前進して行って欲しいです。

あと残り少ない幼稚園クラスの練習ですが、明るく、楽しく、元気にいきましょう。
宜しく願い致します。

子どもの成長は早い

幼稚園コーチ 大原 広生

年少年中の弱々しかった頃からから見てきた子どもたちが、今年になってから必死の顔で練習や試合に打ち込むようになり、感動すら覚えました。これからも子どもたちに驚かされることを期待!!

今年1年を振り返って

幼稚園コーチ 太田 昌彦

今年からまた幼稚園に戻って担当させて頂きましたが、子供たちと本当に楽しく1年間過ごす事ができました(子供たちはどうだったかな?)。

私は、この1年間を通して、練習では以前よりそれほど多くの事を教えたりはしなかったと思います。むしろ、子供たちと一緒に楽しみながら、この年代の子供たちに必要な運動能力を身に付けてもらう事を意識してやってきました。今からこの子供たちがどのように成長していくのかが楽しみです。

それと、先日の幼稚園最後のミルクィ大会、見事でしたね。特に私が感心したのは、3戦3勝という結果もさることながら、その勝ち方です。相手チームに比べ、コーチがほとんど大きな声で細かく指示することなく、結構みんなが試合に集中できていた事です。他スクールの子供に比べてちょっぴり大人?に見えました。この調子で来年もみんな楽しくラグビーできたら最高ですね。

ミルクィ大会を終えて

幼稚園コーチ 牧野 義之

幼稚園チームは、今年も元気にミルクィ大会全試合に参加しました。

勝敗はともあれ、年長、年中、年少とも日頃の練習の成果を発揮して素晴らしい試合を行いました。

特に、年中、年少チームは、今年ラグビーを習い始めたお友達も含め、本当に成長しました。

また、年長チームは、来年1年生に昇級するにあたって十分な基礎が出来たと思います。

ご父母の皆様も、お子さんと共にラグビーの素晴らしさを感じられた1年であったと思います。

これからも、麻生のリトルラグーマン達を応援宜しくお願いします。

頑張れ!! 麻生のリトルラグーマン!!

うれしかったこと

ねんちょう のだ こうすけ

センリアでたいせんしたちいむとたたかって、らぐびいがわかりました。
MVPにえらばれてうれしかったです。

これから

ねんちょう おおはら りゅうく

もっと練習して強くなりたい。試合で横浜(!)に勝ちたい。

これから

ねんちょう ささき なるみ

タックルをして敵をたおしてボールをとる。
みんなでパスをしてトライをしたい。

トライ

ねんちょう たかや ゆうき

トライをした時はとても楽しかった。これからもたくさんトライ出来るよう頑張る。

ラグビー

年長 かわい まさき

すこしでもボールにからみ、みんなのトライにつなげたい。

ミルクキーを振り返って

年長 野田航佑の母

幼稚園のみんなミルクキーお疲れさまでした。
みんなそれぞれ試合を重ねる度に上手になっていってとても良かったと思います。
特に年長さんは1年前とは全く違う試合運びで・・・成長がすばらしかったです。
ただ、くやしかったのはセンリアでの試合です。あの日は大事な試合であるということをお子たちに伝えて朝からもっとテンションを上げておくべきでした。実力ではなく、気持ちで負けていたように思えました。1年生になったら、もっとパワーアップした麻生RSで必ずリベンジしてください。期待しています。

少しずつ成長

年長 大原琉来の母

試合に負けたあとは、確実に自分で次回はこうしたい！と悔しい気持ちを持てるようになった気がします。その気持ちが練習や試合にどんどん活かせるようになればと思います。

成長

年長 小坂龍平の母

今年の夏くらいからやっとうぐランドでの虫探しからラグビーの方に行き始めた息子ですが、相変わらずやる気があるのかないのかよくわからないプレーばかりで、親としては歯がゆいばかりです。9月にはダラダラプレーの息子が足首骨折という珍事もりましたが、大和での試合では自分からボールに行こうとする姿も見られ、少しずつですが、成長しているのを感じました。これからももう少しやる気を出して続けて行ってくれたらと思います。

2011年神奈川県ラグビースクール県大会結果

		10/10	10/16	10/23
Dブロック	勝敗	横浜B	藤沢B	大和
6年	1-2	7●70	0●63	47○41

		11/3	10/30	10/10	10/23
Aブロック	勝敗	横須賀A	川崎A	グリーン	横浜A
5年A	2-2	7●33	70○7	26○14	14●75

		10/10	10/23	11/3	10/30
Bブロック	勝敗	田園A	横浜B	横須賀B	大和A
5年B	2-2	14●61	35○28	77○0	14●19

		10/10	11/23	11/3
Eブロック	勝敗	茅ヶ崎B	横浜C	田園C
4年	2-1	73○5	35○7	21●28

		10/16	10/2	10/30	11/13
Cブロック	勝敗	鎌倉C	川崎A	横浜B	横須賀B
3年A	3-1	84○0	45○20	14●35	77○0

		11/13	11/6	10/10	10/30
Dブロック	勝敗	海老名	大和B	藤沢B	横浜C
3年B	3-1	28○20	42○28	52○0	22●29

		10/2	10/30	11/13
Gブロック	勝敗	横浜F	田園C	横須賀D
3年C	3-0	84○0	25○19	51○17

優勝

大和キンダーカップ:幼稚園 11/6

麻生 ● 0-20○ 横浜A

麻生 ● 10-20○ 相模原A

ミルクィー交流大会 海老名陸上競技場 11/23

<幼稚園年中>

麻生 ○ 55-20● 鎌倉A

<幼稚園年長>

麻生A ○ 35-20● 横須賀B

麻生B ○ 50-15● 横浜C

<1年生>

麻生A ● 35-55○ 鎌倉A

麻生B ○ 45-15● 横浜D

<2年生>

麻生A ● 10-40○ 田園B

麻生B ● 10-20○ 横浜C

麻生AB ● 5-55○ 横須賀E

編集後記

県大会。やはり田園は強い。田園以外も横浜、相模原、藤沢等は強い。これら強豪スクールに対して、麻生の6年生は一步上を行くラグビーを目指したい。麻生ラグビースクールの精神性が非常に素晴らしいから。勝敗を別とすれば、今年も麻生RS魂はいたるところで発揮されたことがよくわかる。(編集長毛利) 喜びや悔しさが大いに感じ成長して下さい。(DAGS 小松)

6年生、お疲れ様でした。子供達のこの大会にかける様々な気持ちが詰まっていました(6年木下) ビックイベントが終了し、子どもたち一人一人のたくさんの思い出がたくさん詰まったリトルラグーマンができました。編集作業がとても楽しかったです。(5年宇田)

今年初めのみんなの原稿と比べるとみんなたくましくなっていることがよくわかりました。(4年上田) 県大会での子供達の一生懸命な姿には、毎年ながら感動させられます。子供達へ「ありがとう！」(3年亀田)

子供たちの成長を感じたミルクィ大会でした。“みんなでボールをつないで勝つんだ”という気持ちで試合に臨んでくれたことをうれしく感じています。(2年井上)